PRINCIPALITY OF
ZEON

MS-07B GOUF

PRINCIPALITY OF ZEON MASS PRODUCTIVE LAND BATTLE MOBILE SUIT



1/100 scale MASTER GRADE MS-07B GOUF Ver.2.0

MG MASTER GRADE

ジオン公国軍
陸戦用量産型モビルスーツ
MS-07B グフ Ver.2.0
1/100スケール マスターグレードモデル

BANDAI

BANDAI 2009 MADE IN JAPAN
※写真の完成品は、塗装してあります。
0158756

ジオン公国MS開発史

膠着状態

U.C.(宇宙世紀)0079年1月3日、ジオン公国の宣戦布告で始まった戦いは、公国軍が地球上のおよそ2/3を勢力下に置いた時点で膠着状態に陥った。これは、連邦軍の抵抗よりもむしろ、公国軍の兵站が伸びきったためであった。

緒戦において地球連邦軍を圧倒した公国軍は、電撃的な殲滅戦を展開することで早期決着を企図していた。しかし連邦政府は、“奇跡の生還”を果たしたレビル将軍の「ジオンに兵なし」とする主張に基づいて徹底抗戦を選択した。長期戦を余儀なくされた公国軍は、戦線維持のため地球降下(侵攻)作戦を敢行する。連邦との国力の差を自覚していたジオン公国だったが、このような事態を想定していなかった訳ではない。二度にわたるブリティッシュ作戦は失敗し、政治的目標であった連邦軍の本拠地ジャブローの殲滅も依然として達成されていない。U.C.0076年12月の時点で、既に地球侵攻に伴う装備や局地戦用MSの開発に着手していた公国軍は、ルウム戦役直後からその規模を拡充し、降服勧告に等しい休戦条約締結の打診に並行して、局地戦用MSの実際的な運用法も含めた検討を始めていた。現実問題として、連邦政府が降伏を受け入れた場合であっても、戦術レベルでの制圧や拠点確保に局地戦用MSの開発が不可欠である事は火を見るよりも明かだったからだ。U.C.0079年2月1日。南極条約締結の翌日、公国軍は“地球方面軍”の設立を公表し、2月7日には“地球侵攻作戦”を開始する。この短期間での戦闘再開には、レビル将軍による「ジオンに兵なし」とするメッセージに対抗するという側面もあった。宣戦布告から現時点に至るジオン公国の勝利は、しょせん辛勝であった事を喝破した敵将レビルの指摘が真実であったが故に、それを敵国は元より自国民からも払拭する必要があったのである。すなわち“地球侵攻作戦”は、極めて政治的な動機によって実行されたということができる。無論、鉱物資源の獲得という実利的側面などもあったことは言うまでもない。ソロモンの要塞化に並行して、小規模な降下作戦を展開しつつ、地球軌道上の迎撃システムの無力化や地上のミサイル基地の殲滅などを経て、3月1日、公国軍は第一次降下作戦を展開する。本格的な大部隊による地球降下作戦が実施され、バイコヌール宇宙基地を含む旧ロシア方面に侵攻した。3月4日には資源採掘部隊が中央アジアなどに、3月11日には第二次降下作戦によって北米大陸に降下。ニューヤークやキャリフォルニアベースが制圧された。そして、3月18日の第三次降下作戦でのアフリカを含む南半球への降下を最後に、補充部隊の往還などを除いて大規模な降下作戦は実施されていない。その一方で、連邦軍は“戦線の維持”以上の作戦行動は採らず、大規模な反抗作戦を前に着々と軍備を整えていたのである。いずれにせよ、この戦争は次なる局面に移行しようとしていた。この時期のいわゆる「膠着状態」は、双方の戦略上の均衡の元に維持されていたと言うことができるのである。

格闘戦を考慮に入れたMS開発

戦線の膠着は、ジオン、連邦双方に軍備の拡充を迫った。ジオンはザクJ型に代わる陸戦タイプのMSの開発に着手していた。近い将来に想定される連邦製MSとの戦闘に対応した機体の開発が急務とされていたからである。

「RX計画」を取捨選択した「V作戦」は2月17日に立案され、4月1日の発動を目途として関係機関に通達されている。無論、同日発動予定の「ビンソン計画」も同様であった。公国軍にしても、地球上で“ザク”を運用した実働データから、地球環境に“本格的に”適応した機体開発の必要性が“現場レベル”で提案され続けていた。特に06J型は予想以上に地球環境に適応していたが、実際の地勢や自然現象は、机上のプランのみで対応しきれるものではなかったのだ。特に連邦軍が独自にMSを開発するであろう事は開戦以前より予想されており、近接戦闘や格闘を視野に入れた単騎での戦闘能力の向上は喫緊の課題でもあった。何より、公国軍には地上用兵器の実働データやノウハウが皆無であり、高度なシミュレーションに基づいて設計された航空機や戦闘車両のほとんどが、現地での再調整を余儀なくされていた。ただし、それらの膨大な“経験”が兵器開発において最も重要なファクターである事もまた事実であった。一挙に拡大した戦線は、公国軍にとって過分な負担であった反面、実際的な運用ノウハウを獲得するまたとない機会でもあったのである。

U.C.0075年11月の教導機動大隊編成当初より、MS同士による格闘戦は想定されていた。実際、巨大な“人型兵器”の運用を想定した場合、同種の兵器同士による戦闘状況の発生はあり得るべき事態である。実戦型であるMS-05 ザクⅠが量産された際、教導機動大隊の演習項目において、MS同士の格闘は既に当然のごとくシミュレーションが実施されていた。“ザク”のショルダーアーマーが格闘戦に対応していることは周知の通りである。また、ヒートホークのような“斬撃”や“打突”用の武器を正規の武装として採用している事からも、対MS戦闘は想定内であった事が理解できる。実際問題として「V作戦」の存在そのものは既に現実的に対処すべき問題として浮上しており、それが連邦軍によるMS開発計画であるというアウトラインも判明していた。当然、公国軍において対MS用の機体開発は推進されていた。MS同士の格闘戦を想定した場合、課題となるのは機体の運動性能である。基本的には打蹴の応酬から斬撃、刺突が最終段階となろう。その際重要なのは機体挙動のレスポンスである。そのため、アクチュエーターの強化と機体の軽量化が必須となる。また、ダッシュやジャンプなど、重力下であればこそ、立体的な機動性能も敵機に対して有利なポジションを確保するためには必要となる。可能であれば“飛行”の実現も望ましい。グフの仕様は、それらのシミュレーションを経て成立していったのである。



MS-06J

MS-07B グフ

MS-06Jは、基本的に06Fの改装機であった。また、06自体、05からの改良機であったという側面もある。グフは、当初から重力下での運用を前提として設計されたMSである。文字通り、“ザクとは違う” MSなのである。

MS-07シリーズ、いわゆる“グフ系”の機体は、06Jタイプに次ぐ陸戦用MSとして開発された。重力下で存分に機能する機動性と、来るべき対MS戦に備える格闘性能の向上を目的として、装甲を強化、冷却システムが大容量化され、脚部には空間戦闘用の物とは異なる仕様の補助推進システムが搭載された。試作機にはYMS-07のナンバーが与えられ、試験終了後、若干の設計変更を受けて量産化されている。





様々なバリエーションを擁するとはいえ、ザクⅡが量産そのものを目的としていたことは明らかであり、その生産ラインを流用してそれぞれのバリエーションを成立させたことは驚異的なことであった。それでも、その枠内での機能拡張は、開戦から数ヶ月間にわたって展開された地球降下作戦の実施によって限界に達していたのである。

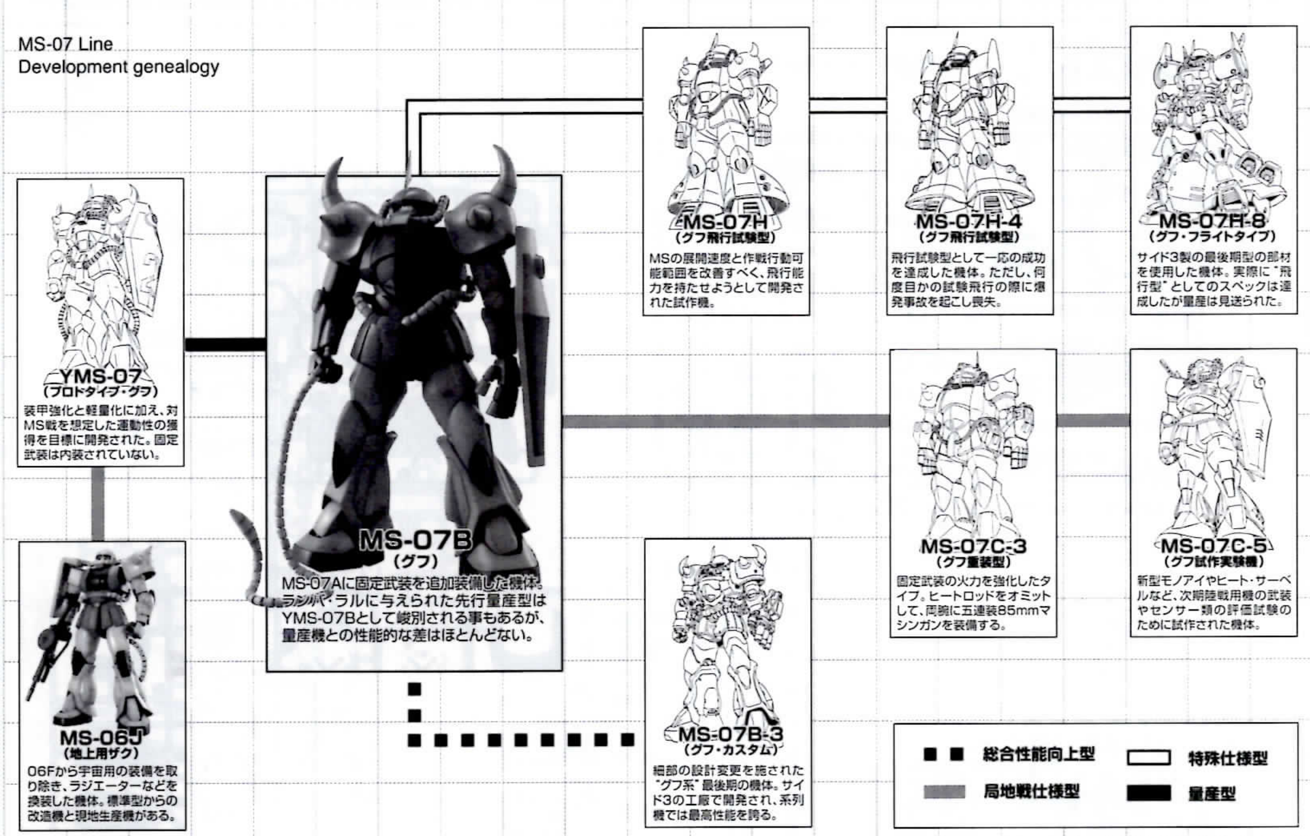
07系の機体は、基本的には06J型の実戦投入で得られたデータをもとに、設計段階から機体の軽量化とともに装甲を強化した機体である。と、同時に“地球環境”に徹底的に適応するためのテストヘッドでもあった。地上における移動力向上のため、開発当初からド・ダイYSとの連携がオプションとして想定されており、連携用の通信機能強化端末のブレードアンテナが標準装備となっているほか、いわゆる“飛行試験タイプ”のバリエーションも多い。なぜなら、“MSの飛行”こそが07系における“機体の軽量化”のもうひとつの目的でもあったからである。MS-09 ドムが“重MS”となったのは「面」展開に特化されたからであり、陸戦においてグフとドムに適用される戦術は根本的に異なるものなのである。それらの開発に当たっては、MSの生産技術が浸透した事もあって、本格的に“開発”に参与した複数の企業による競争原理が働いた事も大きく作用している。同時期にMS-08系となる予定の機体もジオニックと競合する企業によって競作されていたのである。その後、陸戦用MSの開発計画は統廃合され、07系初期の機体のランドセルなどの基本設計には08系の構造が採用されており、脚部の動力伝達機構もこの頃に内装されるようになったといわれている。

グフ系MSのうち、Bタイプに分類される機体は、軽量化によって内部容積に余裕が生まれたため、試作3号機以降は開発段階で設計されていた固定武装を内装し、単騎での戦闘力を大幅に向上させた機体となっている。さらに脚部に装備された補助推進システムによって、初期加速の向上や短距離のジャンプを可能としており、量産型はそのモデルを原型としている。“グフ”の脚部は、06J型の運用で浮き彫りにされた種々の問題を解決するとともに、重力下への適応を最も端的な形で体現した部位でもある。MSの脚部は、特に地上においてもっとも酷使される部位である反面、非常にデリケートなユニットでもあった。そのため損耗率が異常に高く、頻繁なメンテナンスを必要とした。特に06系の機体は、市街地の建造物や灌木が繁茂する地勢において、露出した動力パイプが思わぬウィークポイントとなる事も多かったと言われている。07系の機体は、基本的には局地戦用のMSであり、頻繁な仕様変更は当初から想定されていなかったため、改装や配置転換を前提とした動力パイプの露出構造を採用する必要がなかったのである。また、内部構造の改善と軽量化に加え、補助推進システムの取り回しを兼用する事で、動力関連の構造物を再び内装する事が可能となったのである。膝関節部分には装甲兼用のカバーも設けられ、耐弾性の向上と構造保護に対応した。また、跳躍補助などのために内装されたサブスラスターなどの効用で走破性も格段に向上し、湿地帯や岩場などでも高い機動性を発揮することができる。



MS開発系譜 ー模索ー

MS-06 ザクⅡは、空間戦闘や地上戦、局地戦、果ては水中用などに特化されていく中で、驚異的な適応能力を見せた。それは、戦略レベルの目的に応じて細分化の道を辿ったと言い換える事もできる。しかし、連邦軍の本格的な反攻が始まる以前より、ザクの機能拡張はすでに限界に達していた。それぞれの環境において、公国軍のMSは“ザクの次”へと移行しつつあった。地球侵攻後の膠着状態を経て、対連邦製MSを視野に入れた“対MS兵器”に向けた過渡期にさしかかっていたのである。



スペック・武装

MS-07Bは初の本格的な陸戦用MSである。それは、06Jの運用で課題とされた案件に対して抜本的な解決を図るためのものでもあった。特にボディユニットは、コクピットの配置や冷却装置のハウジングなど、構造的にかなりの変更を受けている。これは、各部の部材やデバイスなどが高性能化、小型化されたことが影響している。さらに、ジェネレーターの開発メーカーや、ジオニックと競合するツィマット、MIPなどの企業が、MSの開発に本格的に参入してきた事も大きな要因と考えることができる。MSはそれ自体が巨大な工業製品だが、機体を構成する各部品群もそれぞれが単独で必要不可欠な工業製品であり、企業間の競争原理と切磋琢磨が品質向上と高性能化に寄与している事は言うまでもない。例えば、06J型では深刻な問題であった機体冷却技術など、M&Y公社とZAS社の合同プロジェクトが基礎技術を確立したドライバの採用によって、潜熱を拡散する効率とジェネレーターの安定稼働の保証時間が格段の延長を遂げている。また、各種の補助デバイスをエネルギーサプライのターミナルに分散配置することで、伝達経路の負担が軽減されたため、圧倒的な運動性の向上に成功しているのである。並行して機体の軽量化と装甲の強化も達成され、制御系の保護回路も複数のフェイルセーフを実装可能とした。例えば、コクピット周辺が損壊した状態であっても、駆動系や操縦系統に致命的なダメージを受ける事無く、戦闘継続が可能であった。これら一連の小型軽量化は、公国軍独自の動力システムである“流体内パルスシステム”の周辺機器にも波及しており、例えば、同じトルクであればより細く、同じ太さであればより強いパワーを伝達する事が可能となっている。機体各部に構造的な余裕ができた主要因はそのためで、武器の内装や装甲の強化、機体の軽量化が可能となったのである。無論、装甲材そのものの改良があった事は言うまでもない。



武装に関しても、それまでに蓄積された武装や戦術のノウハウが可能な限り導入されており、ノンオプションでの戦闘能力は当時屈指の機体となっている。また、ヒートロッドや機関砲内蔵の腕部など、実験的な装備の実戦投入を積極的に行った機体でもある。中でも特徴的なヒート・ロッドは、右腕部に装備されるいわゆる電磁ムチで、微細な圧電アクチュエーターを含有する特殊構造のデンドリマーと、それを覆う高導電率の重合体で構成されており、敵機の捕縛や切断、武装の奪取などをこなす手練もいたようだ。左腕部は5本の指に1基づつ75mm機関砲が内装されている。形状も規格外であるため、シールドなどは専用のもの以外に使用する事はできない。ただし、汎用マニピュレーターとしてはほとんど機能しないものの、ものを掴んだりする事は不可能ではない。ヒート・サーベルは、灼熱化した刃身を瞬時に形成する斬撃用の武装で、ビーム兵器の実用化で連邦軍に後れをとっていた公国軍の、近接戦闘用の武装として高い評価を得ている。専用シールドは、ザクと異なり腕部に装備する。遠距離からの狙撃対策と言うよりは、近接戦闘時の実体弾や敵機による打撃、斬撃を減免するための機能を重視した構造を持つ。その一方で、これらの武装が固定武装とされたのも，この機体が過渡期に生まれたためであるということができる。最後期に実戦投入された系列機では、内蔵武器の機能変更やオプション化などが計られており、より汎用性を高めた仕様へと回帰している。ただし、その運動性能そのものを武器とする機体であることは変わりない。また、後の時代においても、武器を内蔵するMSが姿を消した訳ではなく、むしろ、それらの運用そのものを目的とする機体すら開発されている。MS-07B グフは、多機能化しているMSの魁であったと言うこともできるだろう。





⚠ 注 意

必ずお読みください

- ●この商品の対象年齢は15才以上です。〈鋭い部品がありますので、安全上15才未満には適しません。〉
- ●小さな部品があります。口の中には絶対に入れないでください。窒息などの危険があります。
- ●ビニール袋を頭から被ったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- ●小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

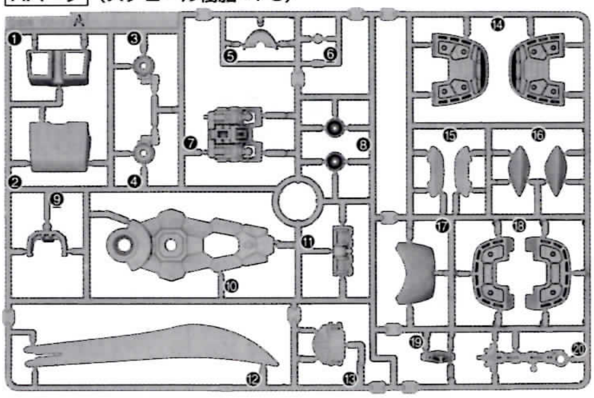
〈組み立てる時の注意〉

- ●組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- ●部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクズは捨ててください。
- ●部品の加工の際の刃物、工具、塗料、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- ●部品の中には、やむをえず、とがった所があるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- ●塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

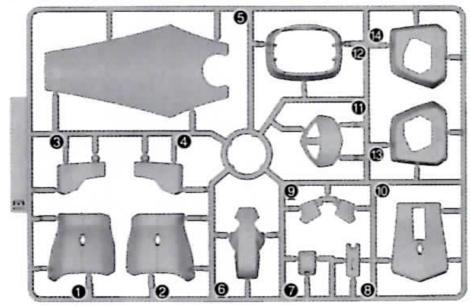
※ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はおすすめできません。

パーツリスト （✖印は使用しないパーツです。）

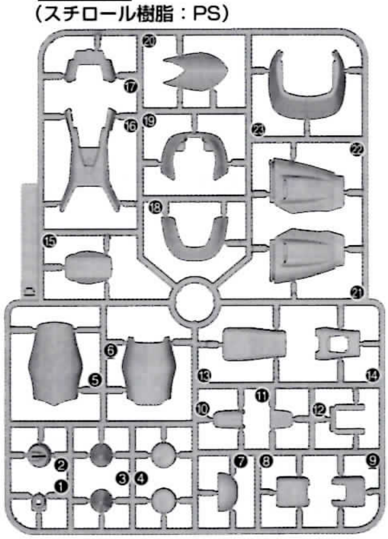
Aパーツ （スチロール樹脂：PS）



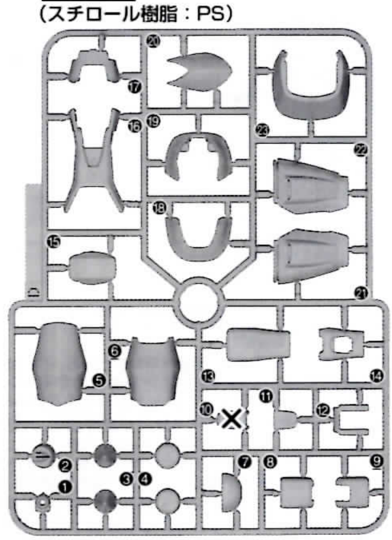
Bパーツ （スチロール樹脂：PS）



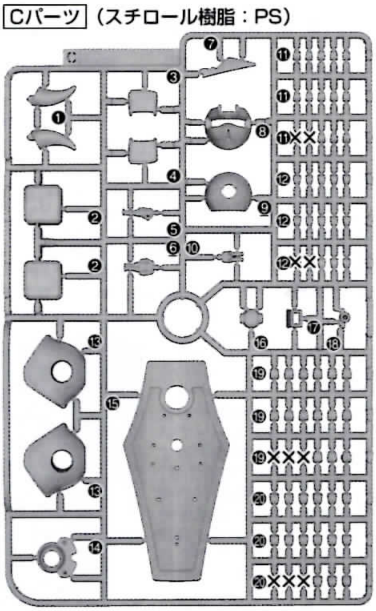
Dパーツ
（スチロール樹脂：PS）



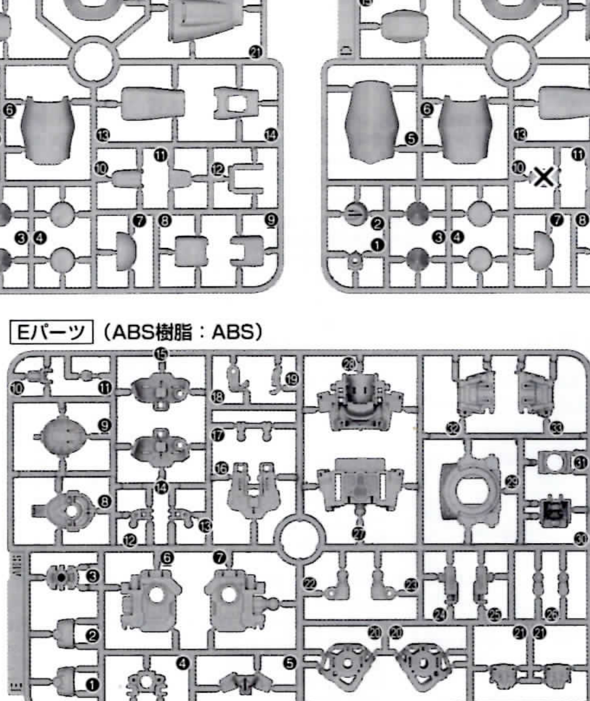
Dパーツ
（スチロール樹脂：PS）



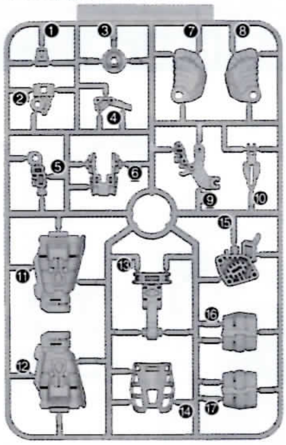
Cパーツ （スチロール樹脂：PS）



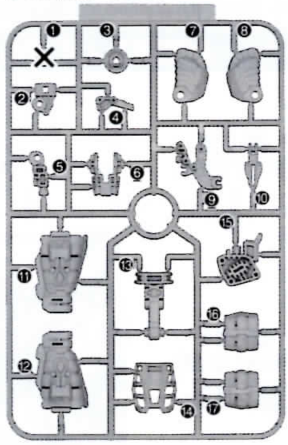
Eパーツ （ABS樹脂：ABS）



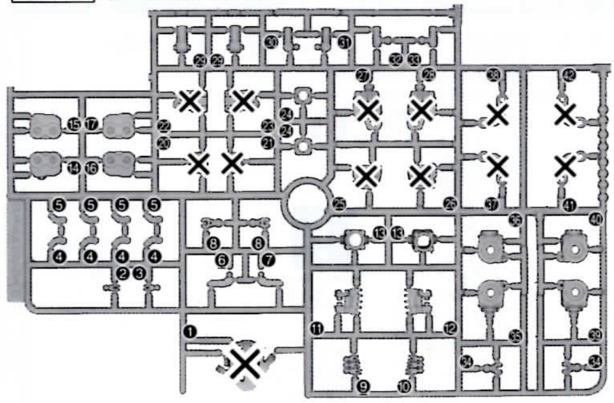
Fパーツ
(ABS樹脂：ABS)



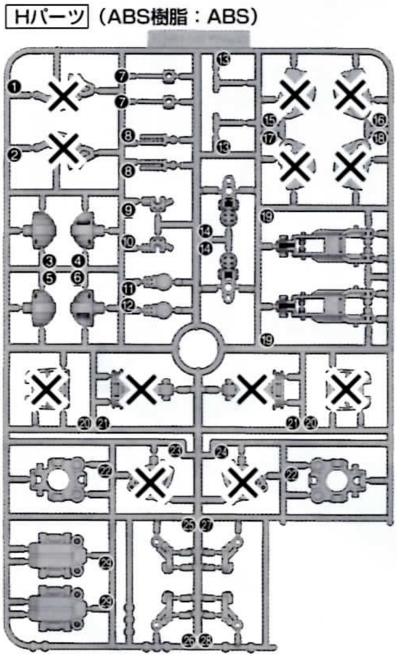
Fパーツ
(ABS樹脂：ABS)



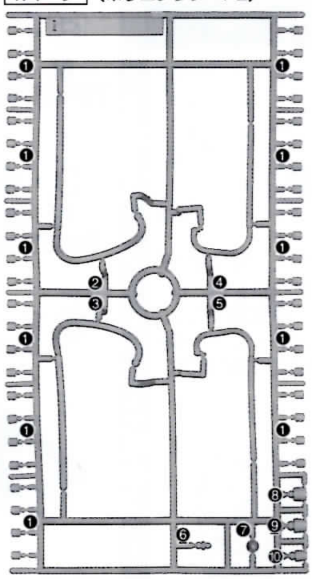
Gパーツ (ABS樹脂：ABS)



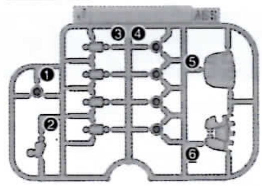
Hパーツ (ABS樹脂：ABS)



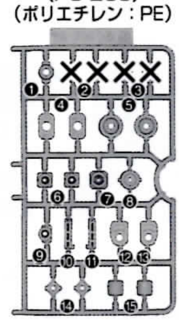
Iパーツ (ポリエチレン：PE)



Jパーツ (ABS樹脂：ABS)



〈PC-200〉
(ポリエチレン：PE)



マーキングシール……………1枚
ガンダムデカール……………1枚

《お買い上げのお客様へ》部品をこわしたり、なくした時は、「部品注文カード」に必要な部品の記号／番号／数量をはっきり書いて切り取り、郵便局で定額小為替をお買い求めいただき、封書（裏面に必ず、お客様のお名前、年齢、ご住所を明記してください。）にて下記までお申し込みください。なお、やむをえず部品注文カードをご使用できない場合には発送が遅れる場合がございます。ご了承ください。又、部品注文カードはコピー（拡大含む）での使用も可能です。代金は、料金表通りです。定額小為替は無記入（白紙）で同封してください。なお、部品の形状・重量で郵送料に過不足が生じるときがあります。部品発送の際に表記額を超える時は不足分を請求、表記額未満の時には残額をお返しいたします。また、在庫がない場合には注文をお断りする場合がございます。その際は、お送り頂きました代金（為替）を返送いたします。但し、それ以外に掛かった手数料等は、お客様負担になりますので、ご了承の程、何卒よろしくお願い致します。もし部品に不良品がございましたら、その部品を切り取り、商品名を書いて、下記まで封書にてお送りください。良品と交換させていただきます。ご記入頂きました個人情報につきましては、商品・部品の発送及び情報の提供以外には使用いたしません。部品注文の方法は、HPでもご紹介しております。詳しくはhttp://bandai-hobby.netより▶お客様へ▶相談センターのお知らせ▶「■部品が必要になったらこちらのページをご覧ください。」をご参照ください。

■申し込み先　(株)バンダイ静岡相談センター
〒420-8681 静岡県静岡市葵区長沼500-12
TEL 054-208-7520

・電話受付時間 月～金曜日
（祝日を除く）10時～16時
・電話番号はよく確かめてお間違いのないようにご注意ください。

《料金表》●部品代、送料は切り取った1個の料金です。Iパーツはランナー単位での販売です。

部品番号	取扱説明書	Iパーツ	シール・デカールセット（セットでのみの販売）	その他
部品代	150円	600円	80円	各40円
郵送料	200円	240円	80円	120円

FOR USE IN JAPAN ONLY.

部品注文カード　0158756
1/100SCALE MGシリーズ
MS-07B グフ Ver.2.0

必要な部品の記号·番号·数量をかく
●注文された理由(○で囲む) (こわした·なくした)

·日中ご連絡可能な電話番号　·**年齢**
(　　-　　-　　) (　　才)

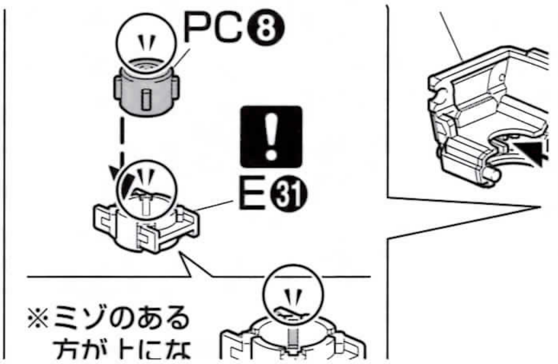
R2054512　'09.05
2009.05/T·ON

※コピー使用可

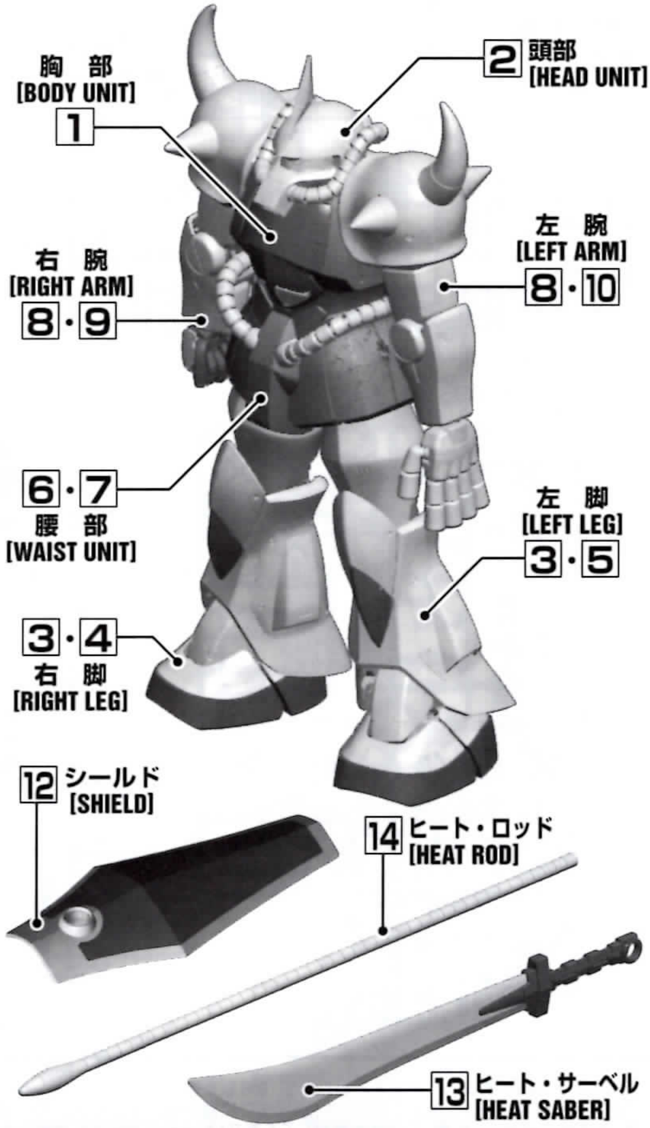
組み立て前の基本説明

部品の向きに注意してください

※組み立て図中に!!のついている部品は、形状や向きに注意して組み立ててください。



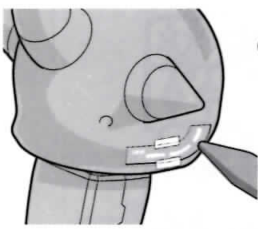
説明書をよく読んで完成させましょう



ガンダムデカールの貼りかた

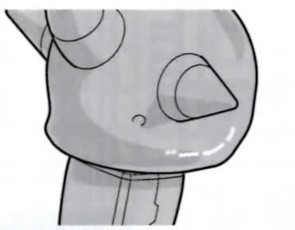
❶ガンダムデカールは、転写するマークを保護シートと一緒にマークより大きめに切り出してください。





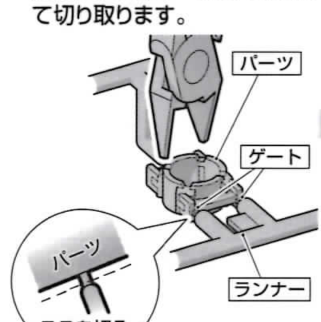
❷保護シートをはがし、貼る位置を決めてから、ずれないようにセロハンテープ等で固定し、マークの上からボールペン等の先端の丸い物でこすりつけて定着させます。

❸シートを静かにはがし、デカールが定着していない部分が残った場合はシートを元に戻し、その部分を再度こすりつけます。

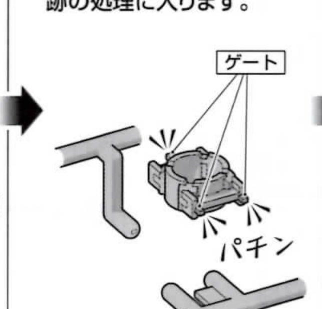


パーツの切り取りかた

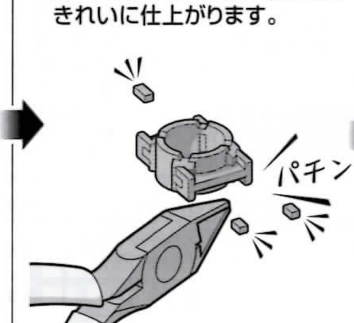
❶まず、パーツから少し離れた位置にニッパーの刃を入れて切り取ります。

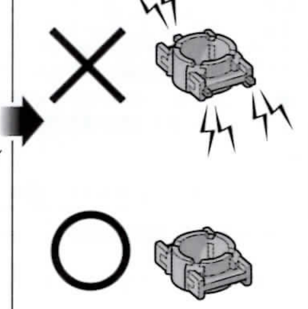


❷パーツを切り離して持ちやすくなったところでゲート跡の処理に入ります。



❸ニッパーの刃をパーツに密着させてゲートを切り取れば、きれいに仕上がります。

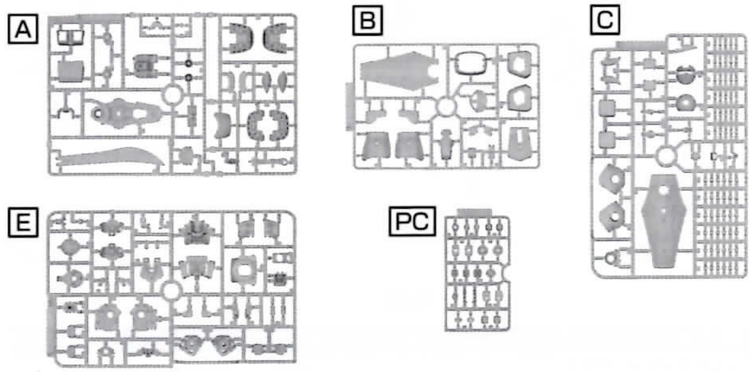




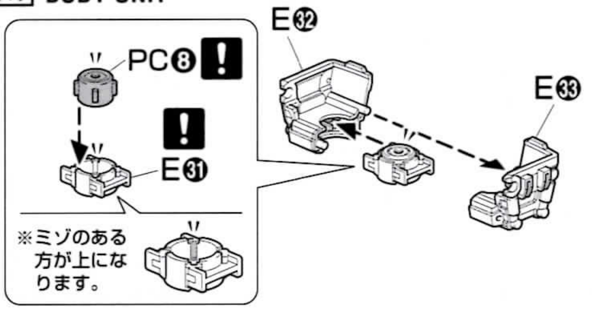
1 BODY UNIT



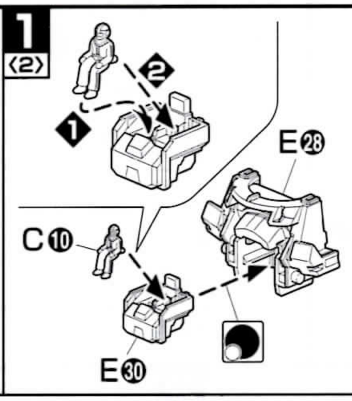
・組立 1 で使用するパーツ



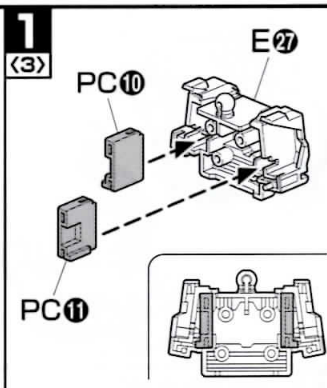
1〈1〉〔胸部の組立〕 BODY UNIT



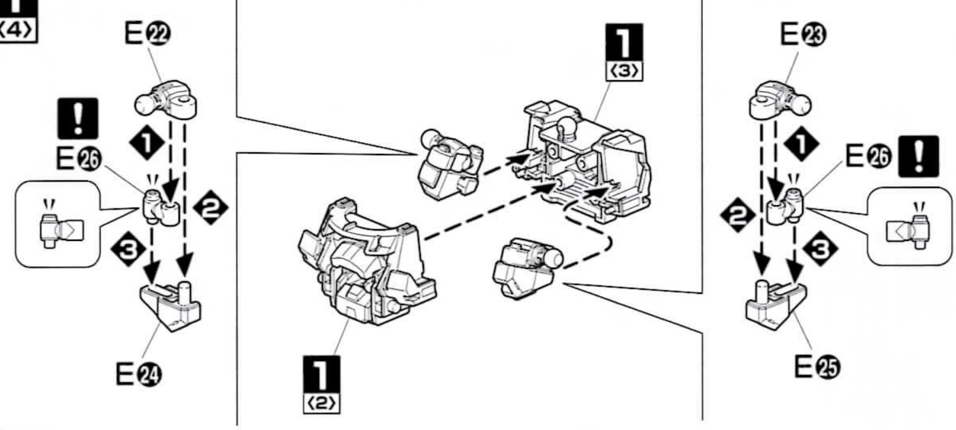
1〈2〉



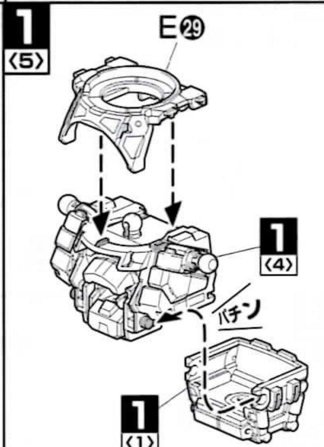
1〈3〉



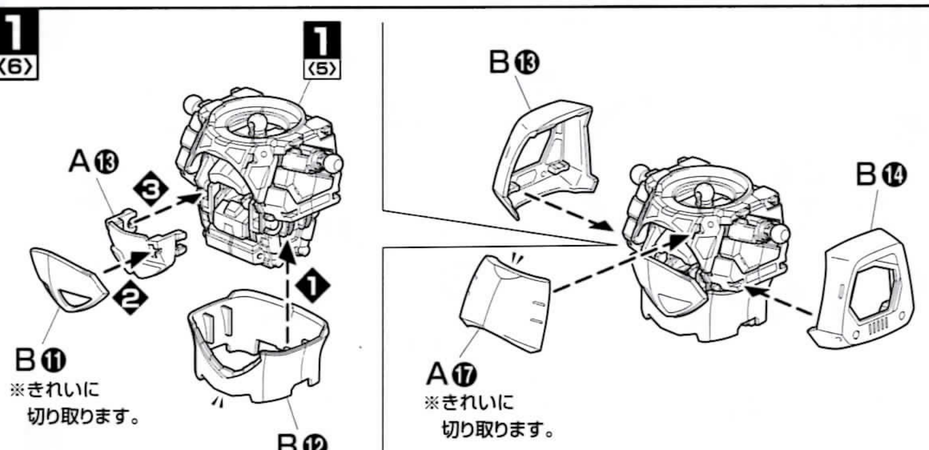
1〈4〉



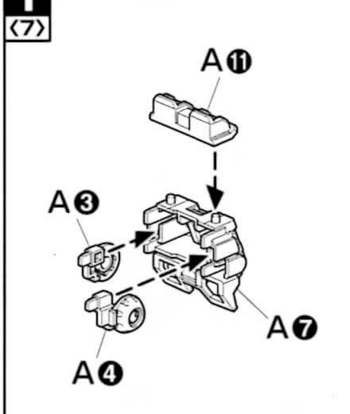
1〈5〉



1〈6〉

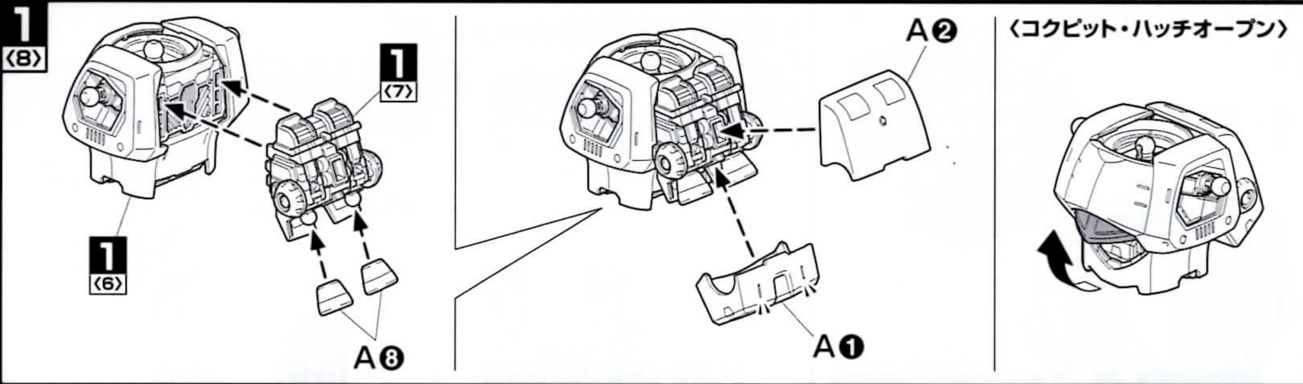


1〈7〉



※組立図中の記号説明

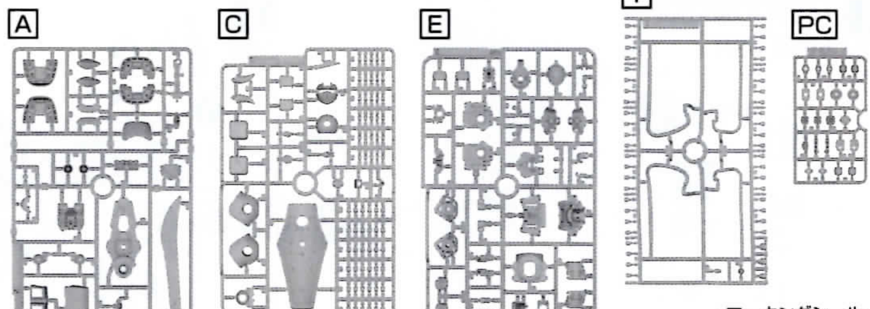
！	向きに注意して組み立てる
●	後から組み立てる

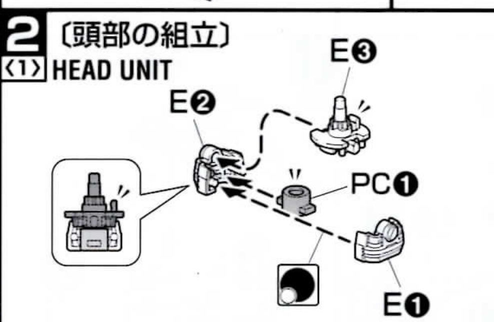


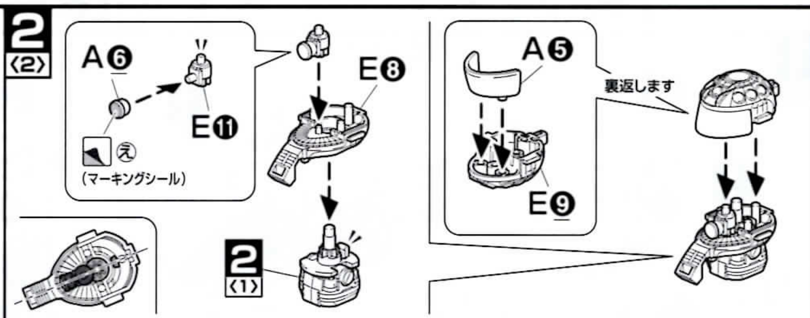
2 HEAD UNIT

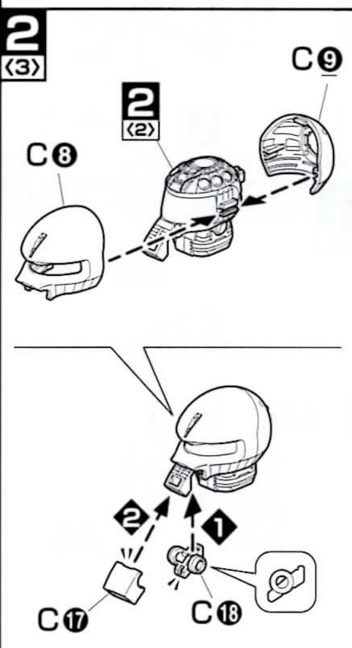


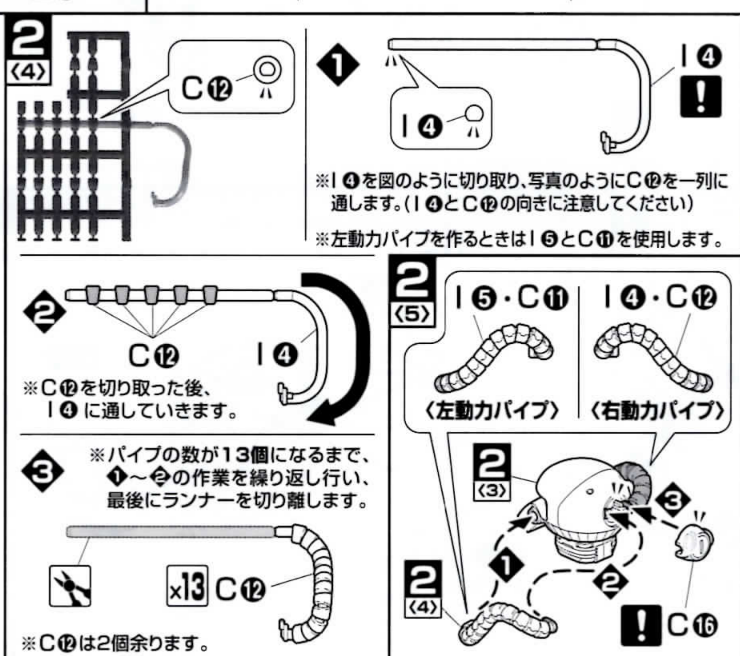
・組立2で使用するパーツ

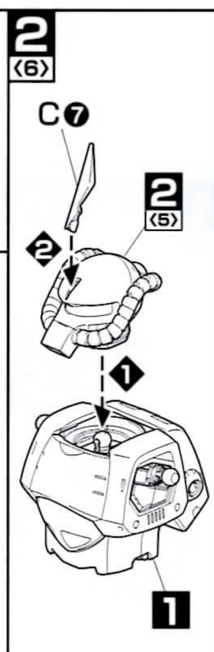










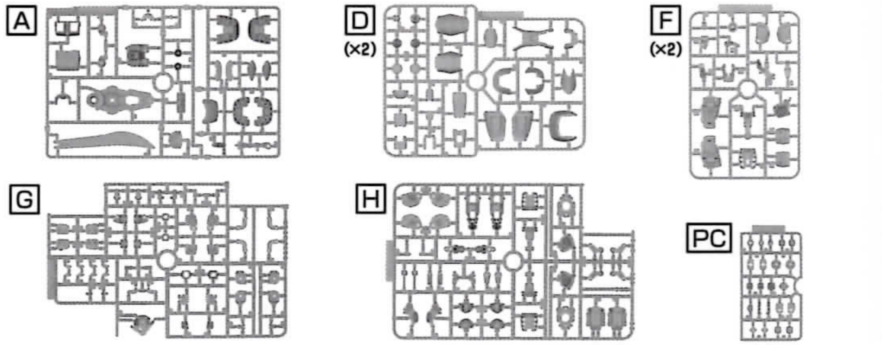


※組立図中の記号説明
- ! 向きに注意して組み立てる
- あ シールの番号
- ×2 部品を数値の個数作ります
- 切り取る部分
- 後から組み立てる

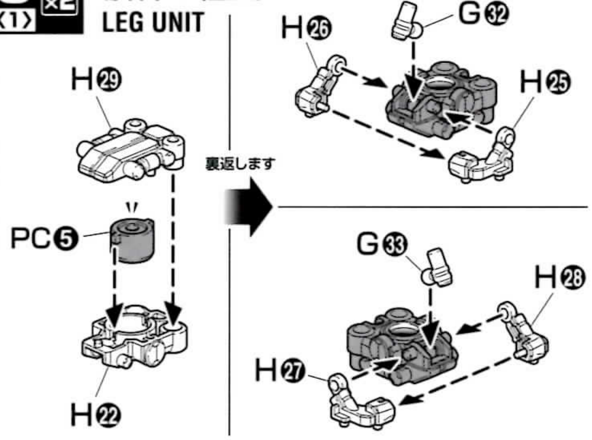
3 4 5 LEG UNIT



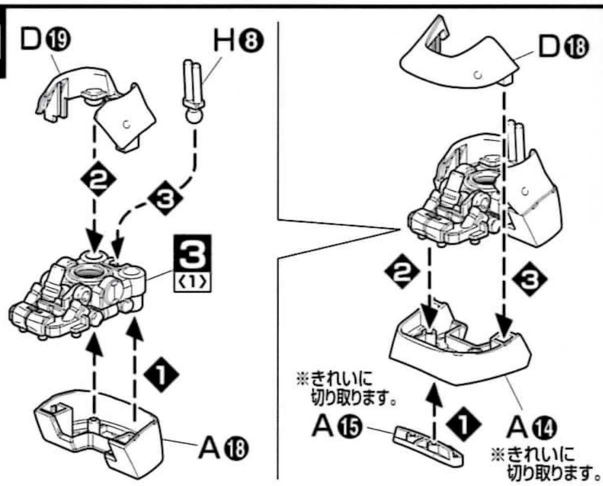
・組立 3・4・5 で使用するパーツ



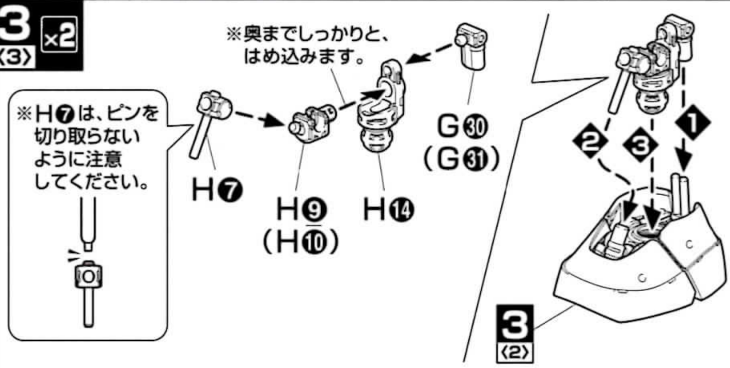
3 ×2 ⟨1⟩ 〔脚部の組立〕 LEG UNIT



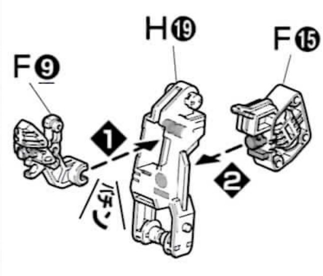
3 ×2 ⟨2⟩



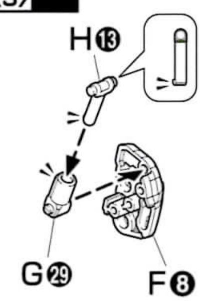
3 ×2 ⟨3⟩



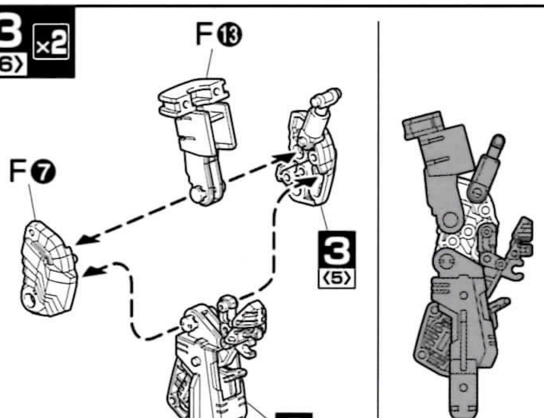
3 ×2 ⟨4⟩



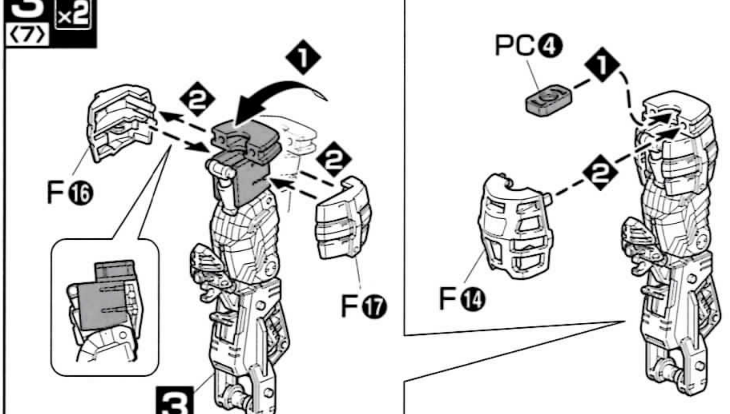
3 ×2 ⟨5⟩



3 ×2 ⟨6⟩



3 ×2 ⟨7⟩



※組立図中の記号説明 ×2 部品を数値の個数作ります

MS Tracks in U.C.0079（一年戦争の軌跡）



ジオンの脅威

U.C.0079年10月6日。ジオン公国で大々的に挙行されるガルマ・ザビの国葬と時を同じくして、WB（ホワイトベース）の討伐を任務とする歴戦の猛将ランバ・ラルが巡洋艦ザンジバルで地球へ降下していた。「アコース、コズン、我々が地球で戦うのは初めてだ。敵のMSが出てきても深追いはするな!!」一方、度重なる戦闘で茫然自失していたアムロは、荒療治を兼ねて無理矢理ガンダムで出撃させられてしまう。カタパルトの加速で覚醒したアムロにヒートロッドが襲いかかり、その衝撃でガンダムは地表に叩き落とされる。と、見上げた崖の上に2機のザクを従えた新型MSグフの機影が、稲妻を背に立ちはだかる。即座に機体を立て直したアムロは、数度の打ち合いの後、武器を失いながらもグフに肉迫する。「や、やってやる、やってやるぞ。新型のMSがなんだ!!」ヒートロッドをシールドで払いのけたアムロはグフのコクピットに殴り掛かる。さらにビーム・サーベルで斬り付けようとするガンダムの右腕をかいくぐり、グフはお返しとばかりに回し蹴りでガンダムを吹き飛ばす。「ザクとは違うのだよ、ザクとは!!」「こ、こいつ、違うぞ。ザクなんかと装甲もパワーも!?」対峙するグフとガンダム。果たして……!!

セイラ出撃

中央アジアを西進するWBに、ガルマの仇討ちを託されたランバ・ラル隊が迫る。WBの右前方から接近するギャロップに対し、兄であるシャアの動向を知りたいセイラは、ジオン兵と接触すべくガンダムで出撃する。「Gがこんなに凄いなんて…」シミュレーションで操縦はマスターしていたものの、初の実戦で思うに任せず当惑するセイラ。「なんとしてもジオンの兵と接触しなければ…」しかし、WBの左側ではランバ・ラル隊がMSを展開して待ち伏せていた。セイラの不慣れさを見抜いたランバ・ラルは、瞬く間にガンダムを打ち伏せる。そこに、横合いからアムロの乗ったガンキャノンが砲撃を掛ける。「うぉっ!?」「セイラさん、立って!!」ガンキャノンの砲撃で舞い上がった砂塵が一瞬グフの姿を消し去る。「セイラさん!?」まだ敵の姿を確認していないにも関わらず、セイラはジオン兵を探す。「…バ、パイロットは?」セイラが周囲を見回した次の瞬間、足下の砂中からヒートロッドが翻り、ガンダムのつま先から向こうずねを斬り捨てる。「ああーッ!!」セイラのガンダムはもんどりうって仰向けに倒れ、その足下からグフが姿を現す。「フフ、砂がクッションになってなければ…」"このグフとてやられていたかも知れない……"。ランバ・ラルは呻いた。木馬とそのMS部隊、油断できん!!



※写真はイメージです。

PAINTING〔塗装〕

※よりリアルに仕上げたい方は、下の基本色をご覧ください。※塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。
●ABS部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はお勧めできません。※カラー配合は参考値であり、写真とカラーガイドの色は異なる場合があります。

MS-07B グフ Ver.2.0 指定色

- 胴体などの塗装色
  コバルトブルー(60%)+インディブルー(35%)+ホワイト(5%)+レッド(少量)
- ランドセルなどの塗装色
  ニュートラルグレー(90%)+ブラック(10%)
- 腕、脚などの塗装色
  コバルトブルー(50%)+ホワイト(35%)+インディブルー(15%)
- 胸、つま先などの塗装色
  ミッドナイトブルー(90%)+ホワイト(10%)
- ヒート・ロッドの塗装色
  ニュートラルグレー(65%)+ホワイト(35%)+パープル(少量)

ランバ・ラル

<軍服>

- 顔の塗装色
  はだ色(100%)
- マント、ブーツなどの塗装色
  ミッドナイトブルー(100%)
- マントの内側などの塗装色
  モンザレッド(100%)
- 階級章などの塗装色
  オレンジイエロー(100%)
- 服、本体の塗装色
  RLMブラックグリーン(60%)+インディブルー(30%)+ホワイト(10%)
- ベルトの塗装色
  ミディアムブルー(70%)+ホワイト(30%)
- 髪、ひげの塗装色
  ライトブラウン(85%)+ダークアース(15%)

<ノーマル・スーツ>

- 本体の塗装色
  ミドルストーン(100%)
- ヘルメットなど、ホワイト部の塗装色
  ホワイト(100%)
- ヘルメット中央ラインの塗装色
  インディブルー(100%)
- ヘルメットレッド部の塗装色
  モンザレッド(100%)
- バイザーの塗装色
  スカイブルー(100%)



クラウレ・ハモン

- 顔などの塗装色
  はだ色(100%)
- 髪の塗装色
  イエロー(90%)+ホワイト(10%)
- スカーフの塗装色
  モンザレッド(100%)
- 服の塗装色
  ブルー(70%)+コバルトブルー(30%)+ホワイト(少量)
- 足の塗装色
  ホワイト(80%)+スカイブルー(15%)+コバルトブルー(5%)
- ブーツなどの塗装色
  あずき色(100%)

ワンポイントステップ ~One point step~

スミ入れしてみよう!

ガンダムマーカー/スミ入れ用(別売り)などを使用して、キットのスジ彫りを塗装することで、立体感、リアル感が増します。スミ入れするだけで見違えるような仕上がりになります。



【before】　【after】

MS-07B GOUF MECHANISM

MS-07B グフは、MS-06J ザクⅡを更に陸戦仕様に特化させた機体である。
基本設計はMS-06のものを基として各部を改良。
その運動性能はMS-06以上の白兵戦能力を有する。

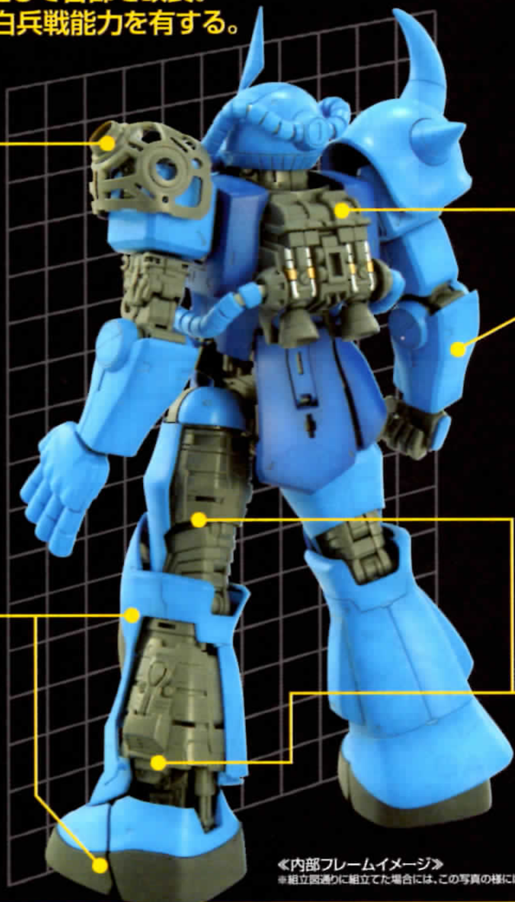


▲ショルダー・アーマーは左右に装備され、格闘戦性能の向上に繋がるとともに、敵パイロットへの視覚的威圧も意図された構造になっている。



▲膝アーマー部は、インナーフレームに連動したスライド機構が組み込まれ、スムーズな可動を確保。また足部においても、跳躍時や悪路での走破性を考慮したシリンダー機構が組み込まれている。

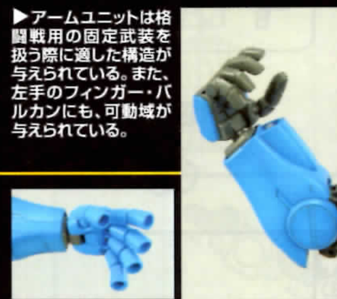
MODEL NUMBER : MS-07B
Height : 18.2m
Weight : 58.5t
Generator output : 1,034kw
Armor materials : super hard steel alloy



≪内部フレームイメージ≫
※組立図通りに組立てた場合には、この写真の様にはなりません。



▶メイン・スラスターは、接近戦とゲリラ戦を念頭に置いた陸戦仕様に改良がされている。



▶アームユニットは格闘戦用の固定武装を扱う際に適した構造が与えられている。また、左手のフィンガー・バルカンにも、可動域が与えられている。



▶脚部は、機体の軽量化と内部構造の改善により、動力パイプが内蔵式に改良されている。また、跳躍補助推進装置を装備したことと相まって、走破性と格闘時の運動性能は格段に向上している。

Weapons

MS-07B GOUF Armament



Heat Rod



Shield



Heat Saber

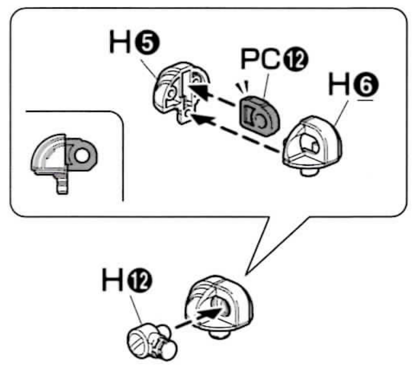




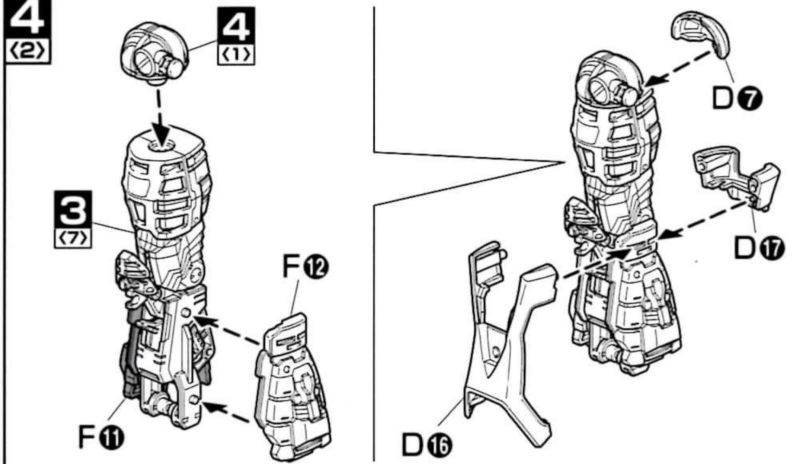
Finger Vulcan



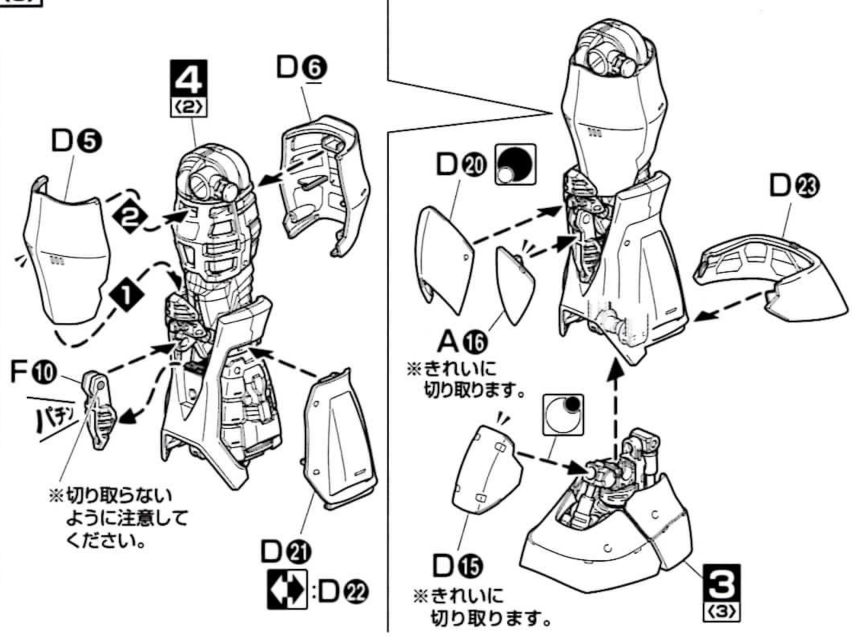
4〈1〉〔右脚部の組立〕 RIGHT LEG



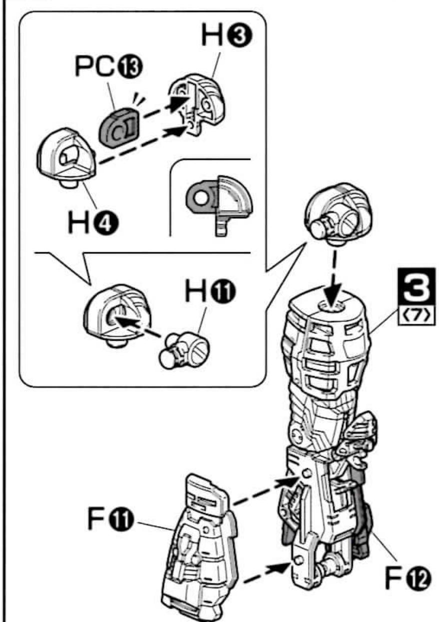
4〈2〉



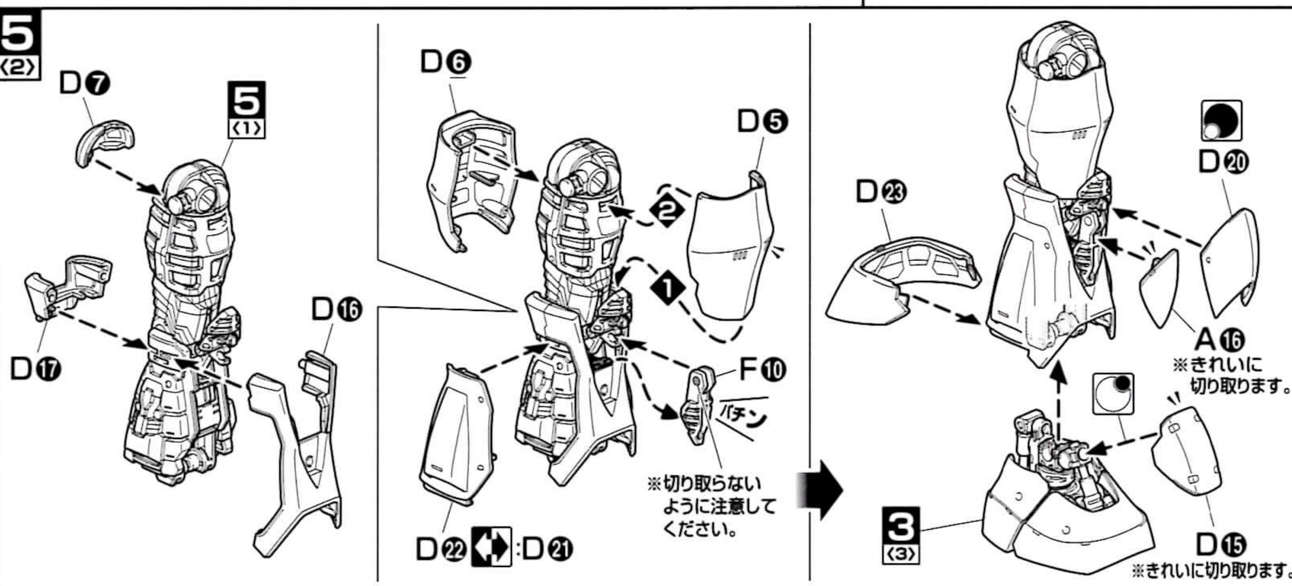
4〈3〉



5〈1〉〔左脚部の組立〕 LEFT LEG



5〈2〉



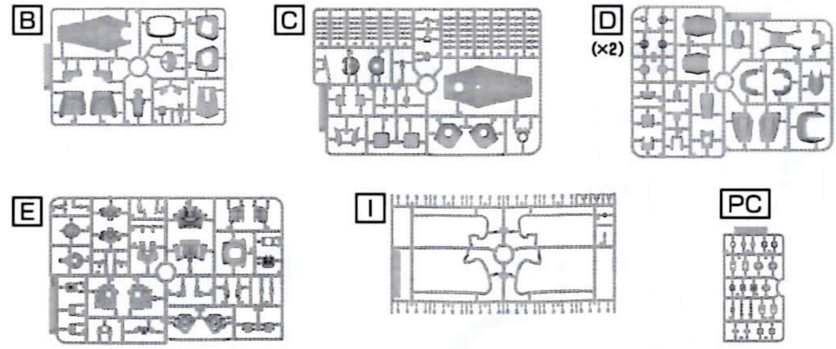
※組立図中の記号説明

後から組み立てる	反対側に取り付けるパーツ	先に組み立てる

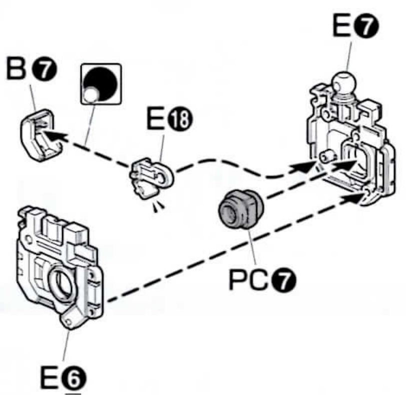
6 7 WAIST UNIT



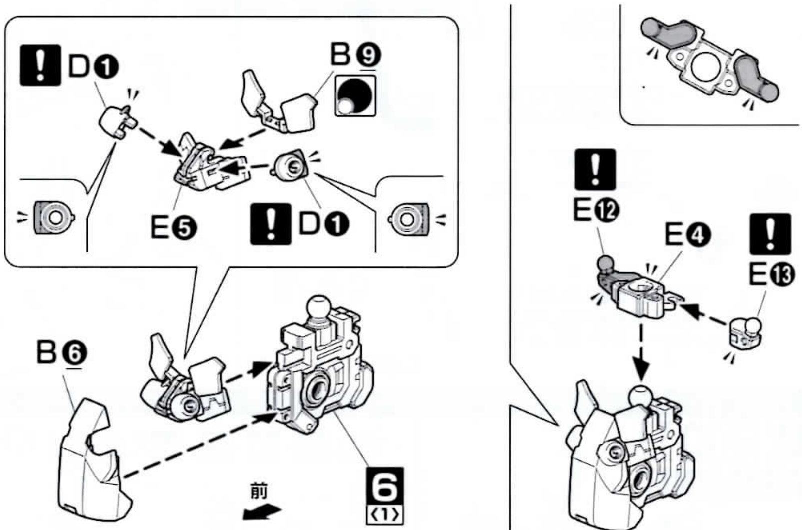
・組立 6・7 で使用するパーツ



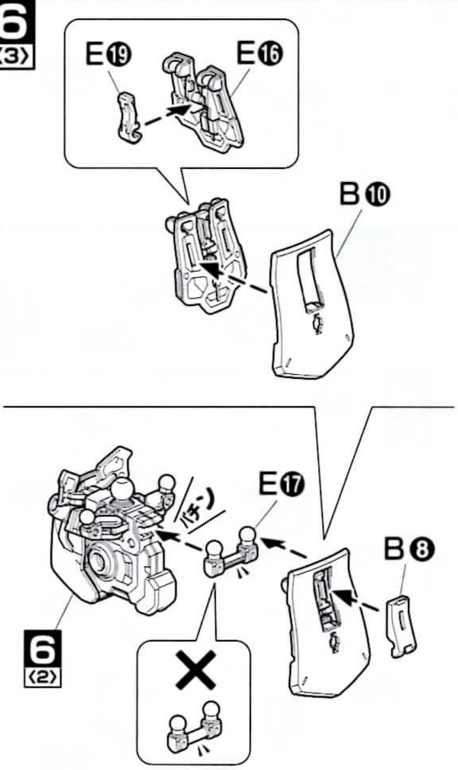
6 〈1〉〔腰部の組立〕 WAIST UNIT



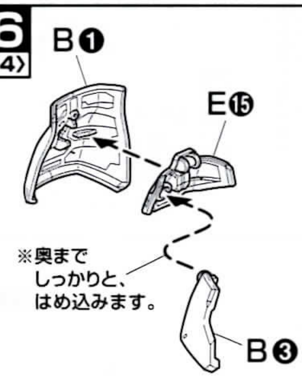
6 〈2〉



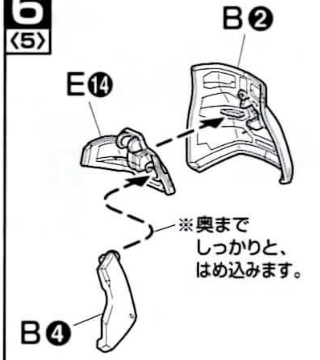
6 〈3〉



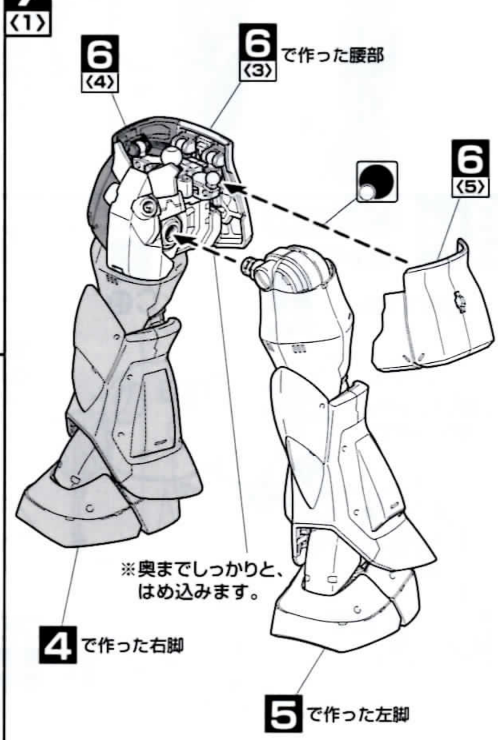
6 〈4〉



6 〈5〉

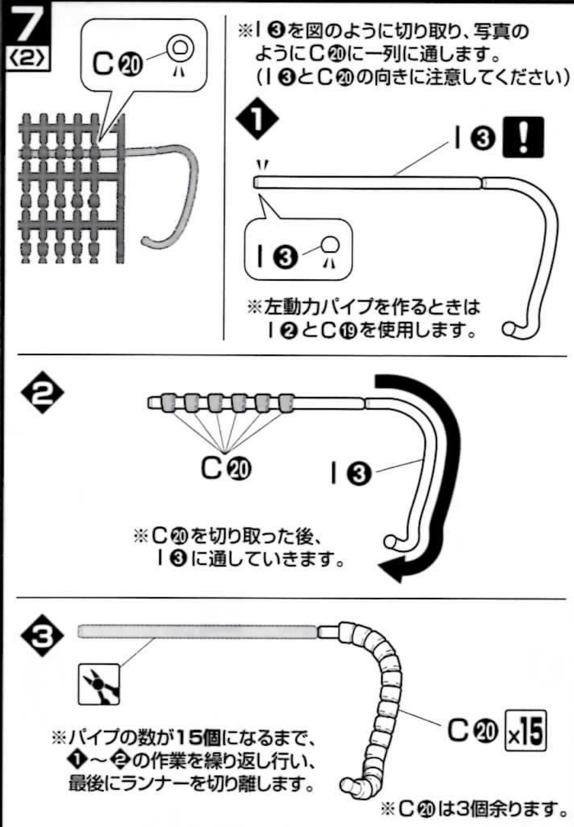


7 〈1〉

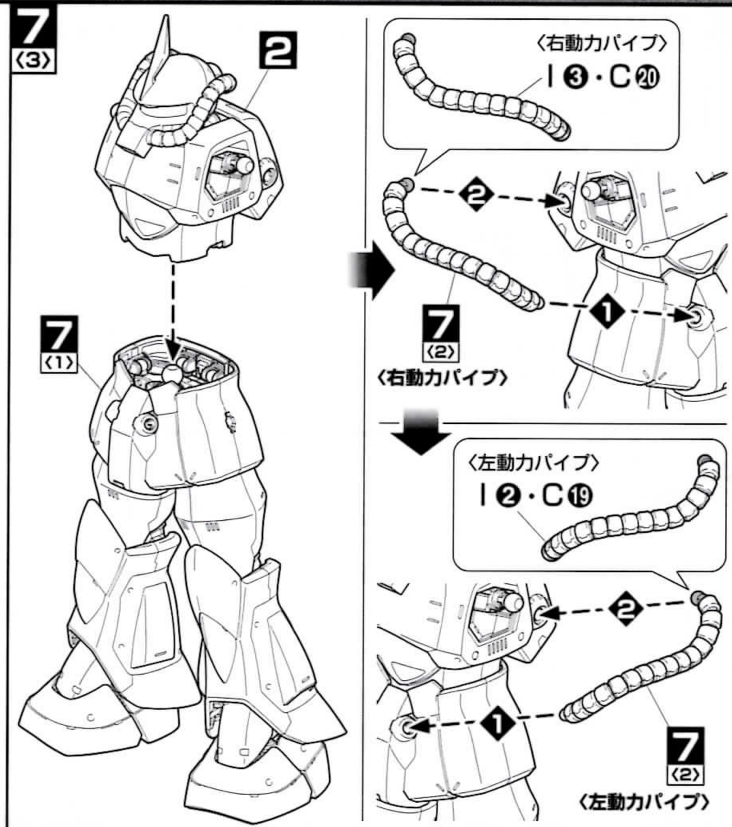


※組立図中の記号説明　！ 向きに注意して組み立てる　● 後から組み立てる

7 〈2〉



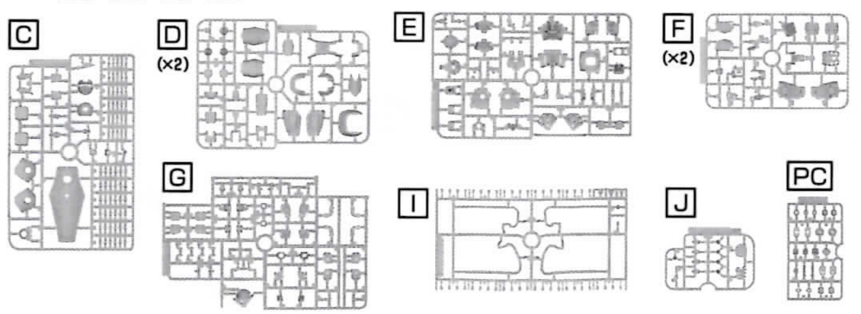
7 〈3〉



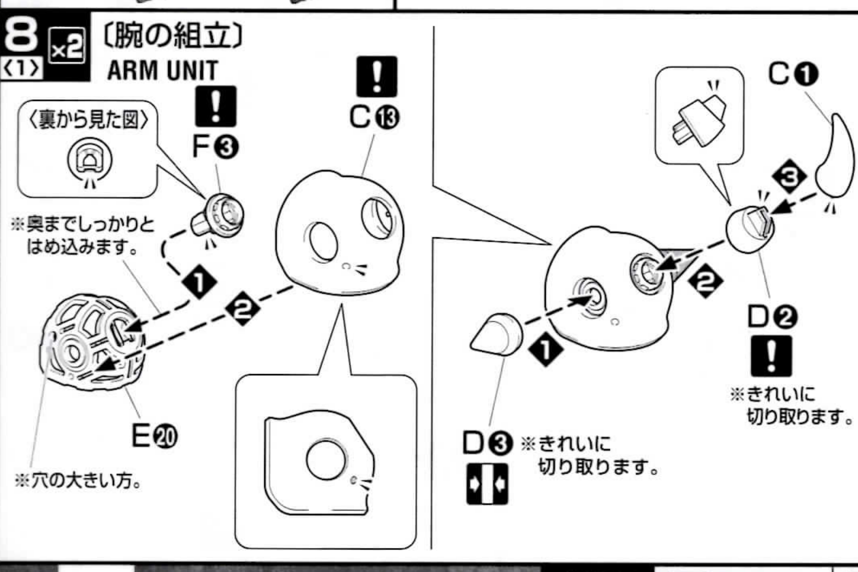
8 9 10 11 ARM UNIT



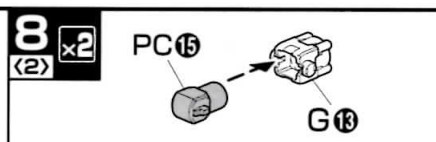
・組立8・9・10・11で使用するパーツ



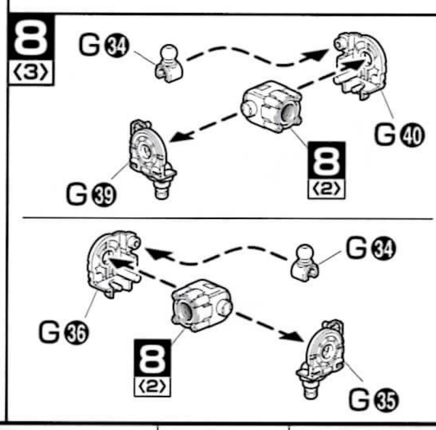
8 〈1〉 ×2 〔腕の組立〕 ARM UNIT



8 〈2〉 ×2



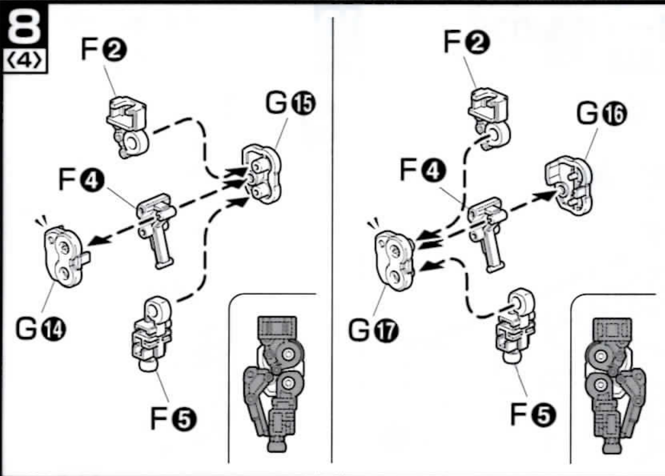
8 〈3〉



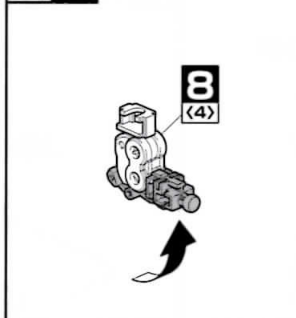
※組立図中の記号説明

!	向きに注意して組み立てる
◆	両側に同じパーツを取りつける
✂	切り取る部分
×2	部品を数値の個数作ります

8 ⟨4⟩

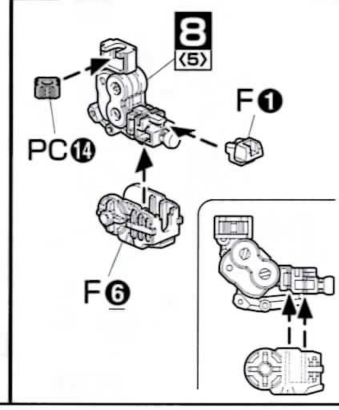


8 ⟨5⟩ ×2

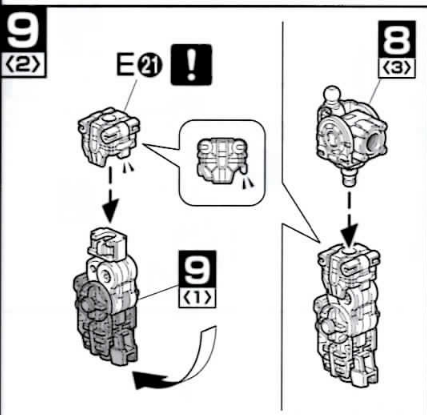


※グフA型を組み立てる方は 18ページ 9⟨1⟩ へ進んでください。

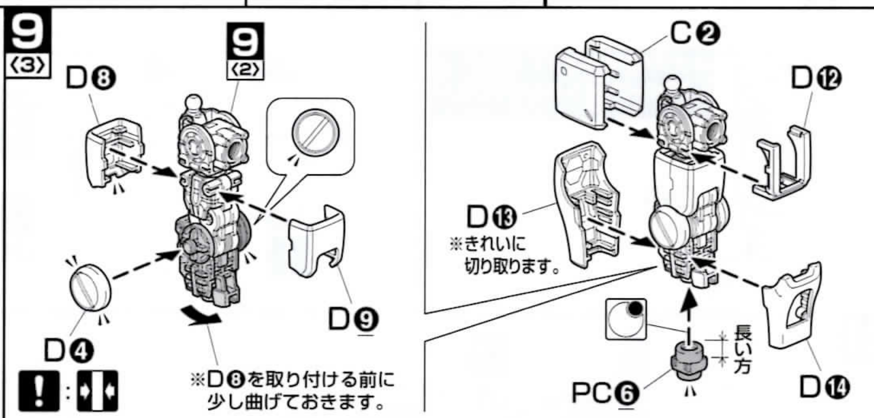
9 ⟨1⟩ 〔右腕の組立〕 RIGHT ARM



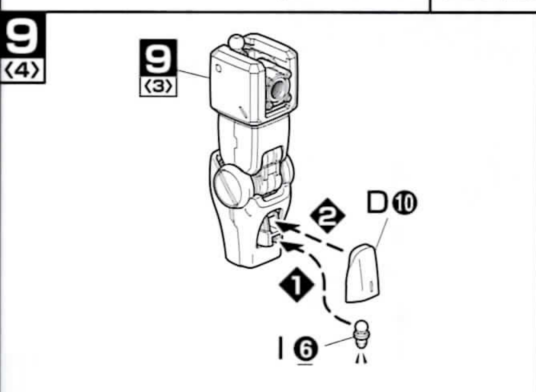
9 ⟨2⟩



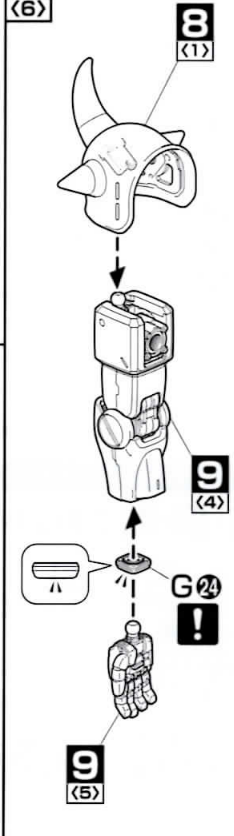
9 ⟨3⟩



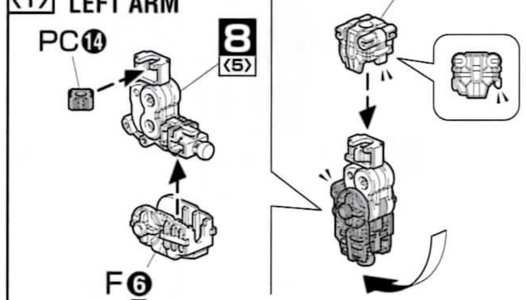
9 ⟨4⟩



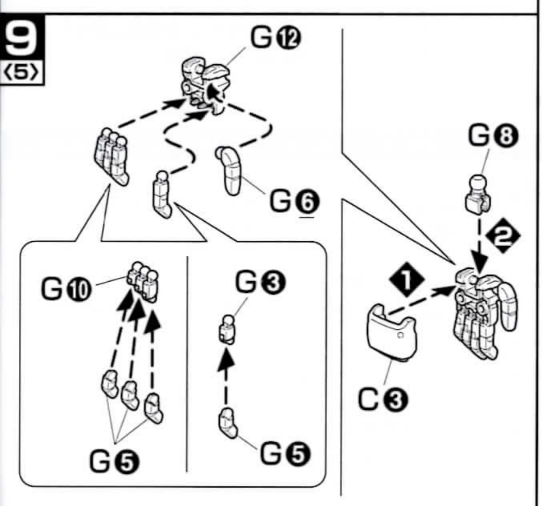
9 ⟨6⟩



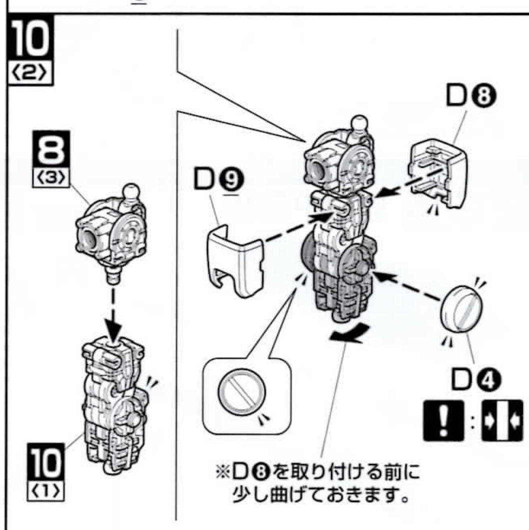
10 ⟨1⟩ 〔左腕の組立〕 LEFT ARM



9 ⟨5⟩



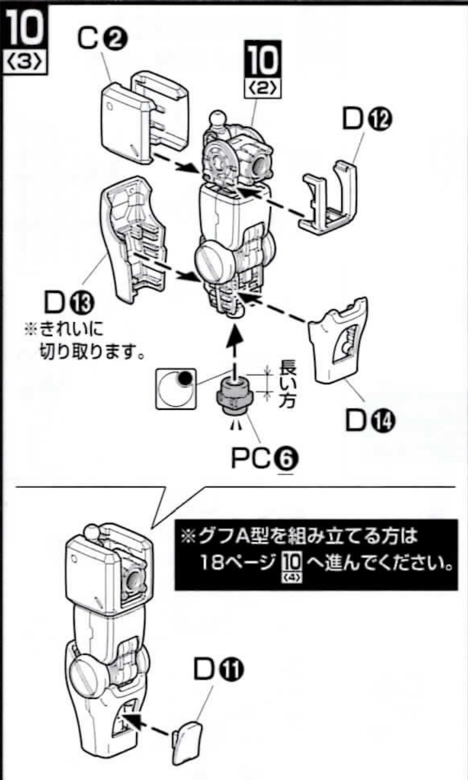
10 ⟨2⟩



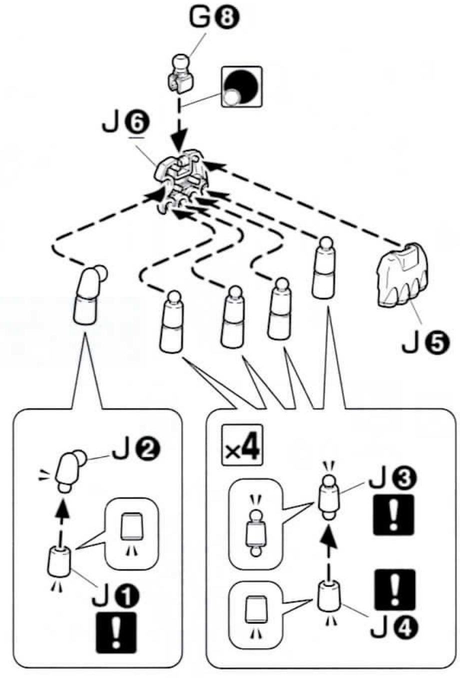
※組立図中の記号説明

×2 部品を数値の個数作ります	先に組み立てる	! 向きに注意して組み立てる	両側に同じパーツを取りつける

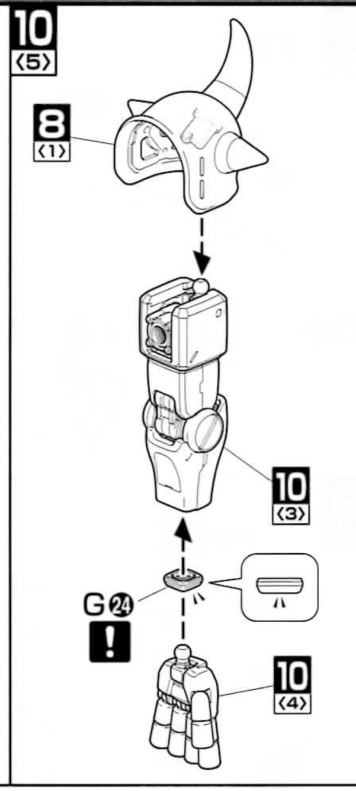
10 〈3〉



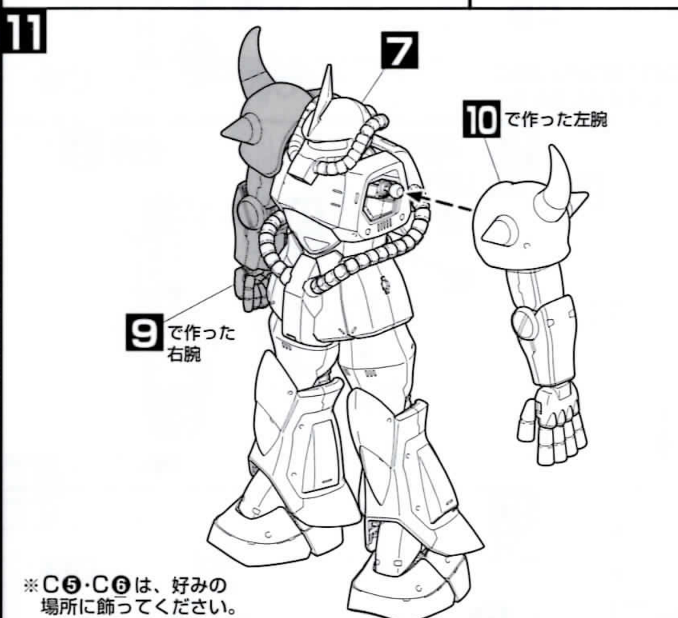
10 〈4〉 〔フィンガー・バルカン〕 FINGER VULCAN

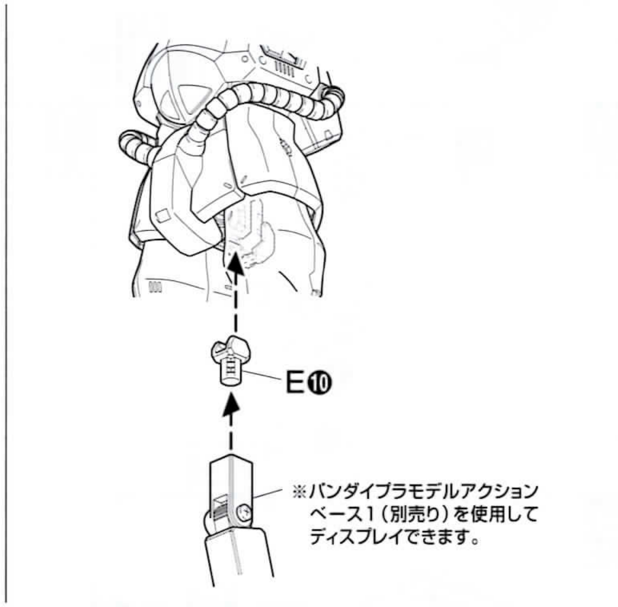


10 〈5〉



11

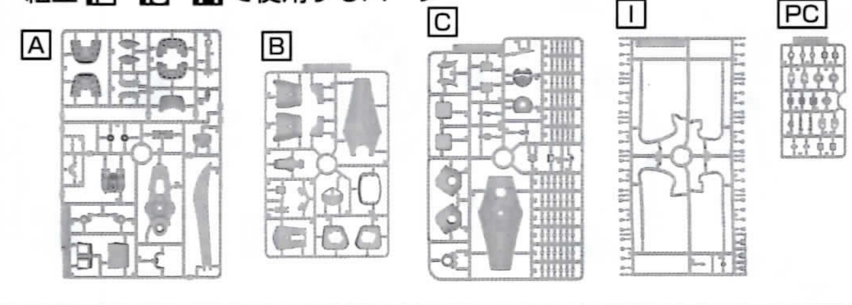




12 13 14 WEAPONS



・組立 12・13・14 で使用するパーツ

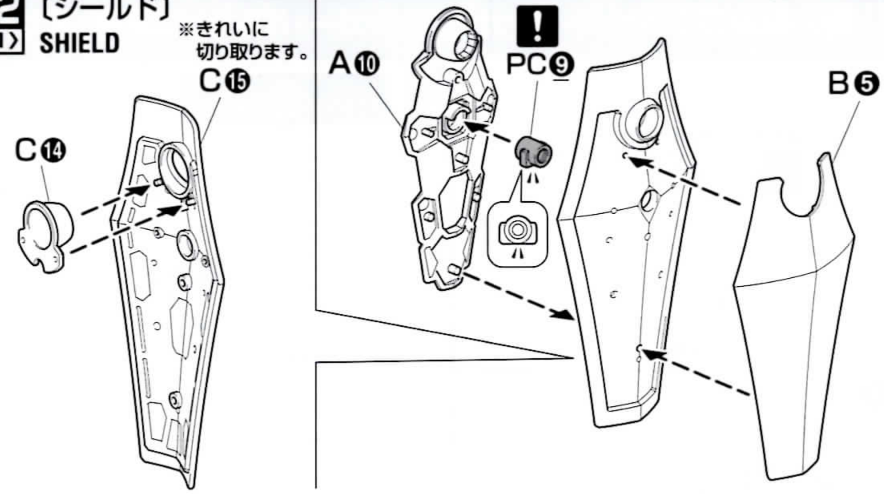


※組立図中の記号説明

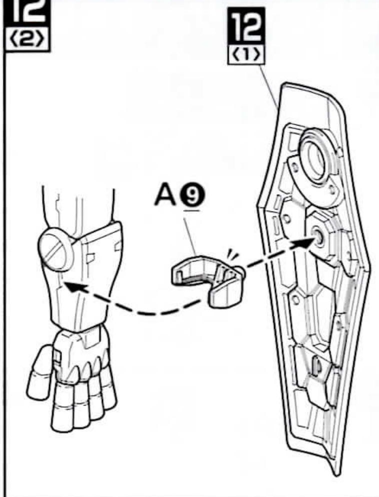
×2	部品を数値の個数作ります
(先に)	先に組み立てる
(後から)	後から組み立てる
!	向きに注意して組み立てる

12 〈1〉 〔シールド〕
SHIELD

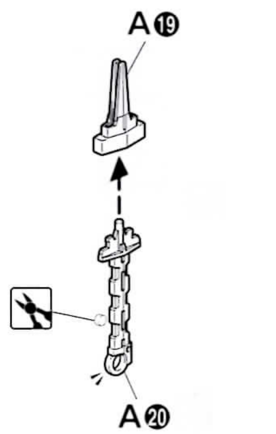
※きれいに
切り取ります。



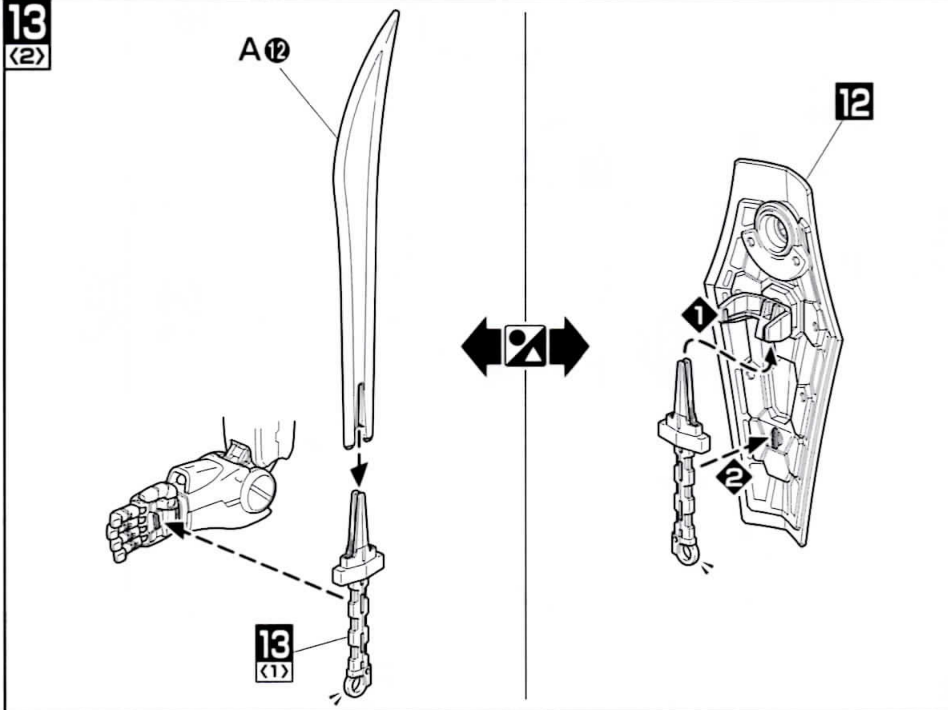
12 〈2〉



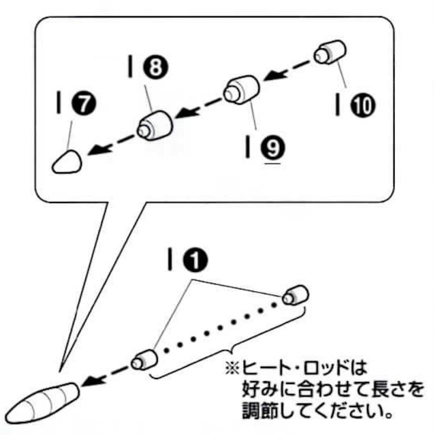
13 〈1〉 〔ヒート・サーベル〕
HEAT SABER



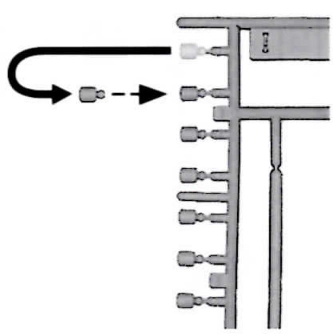
13 〈2〉



14 〈1〉 〔ヒート・ロッド〕
HEAT ROD

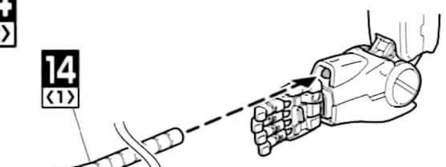


※ヒート・ロッドは
好みに合わせて長さを
調節してください。



※I①は写真のように1個ずつ
連結させながら組み立てます。

14 〈2〉



※ヒート・ロッドは先端まで
可動させることができます。

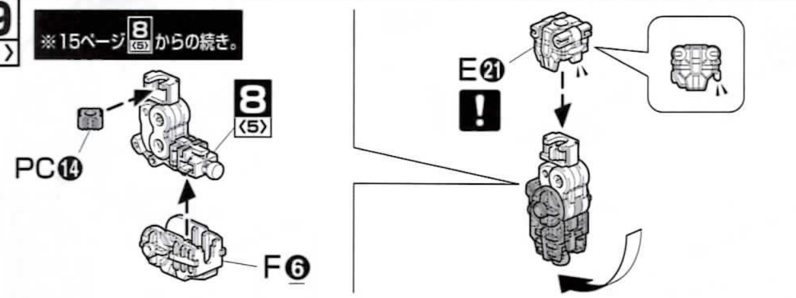


∴組立図中の記号説明 | 切り取る部分 | どちらかを選んで取りつける | 向きに注意して組み立てる

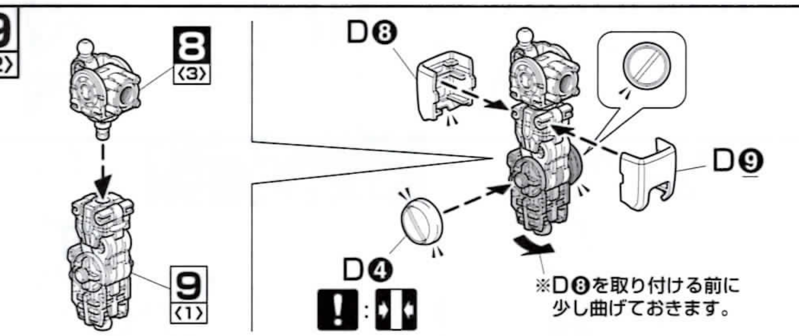
MS-07A グフ（初期量産型）腕の組み立て※ヒート・ロッドとフィンガー・バルカンは使用しません

9 ⟨1⟩

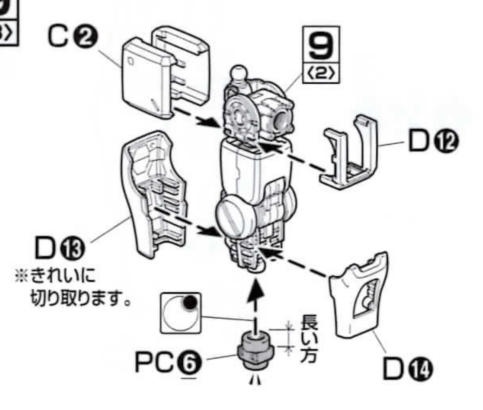
※15ページ 8⟨5⟩ からの続き。



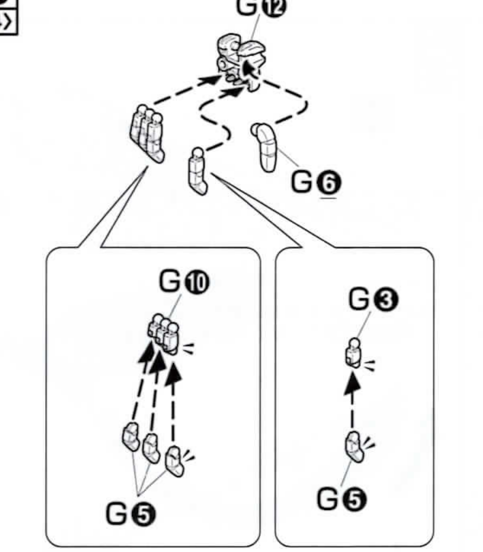
9 ⟨2⟩



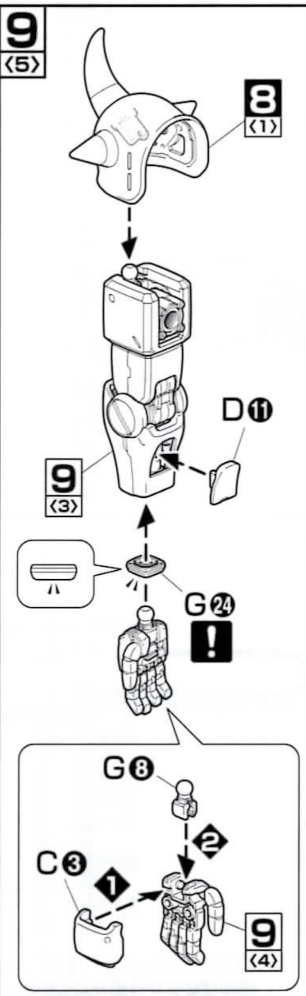
9 ⟨3⟩



9 ⟨4⟩



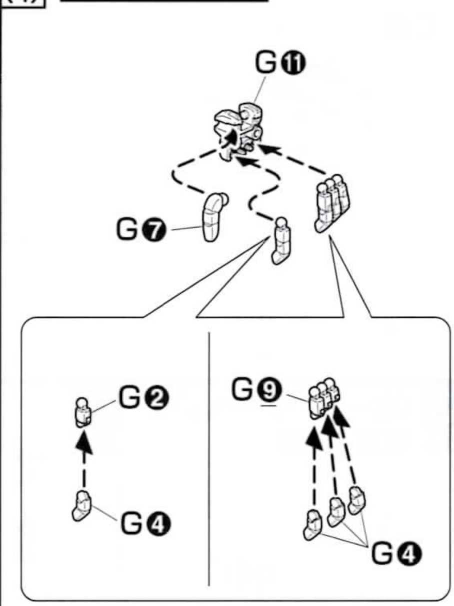
9 ⟨5⟩



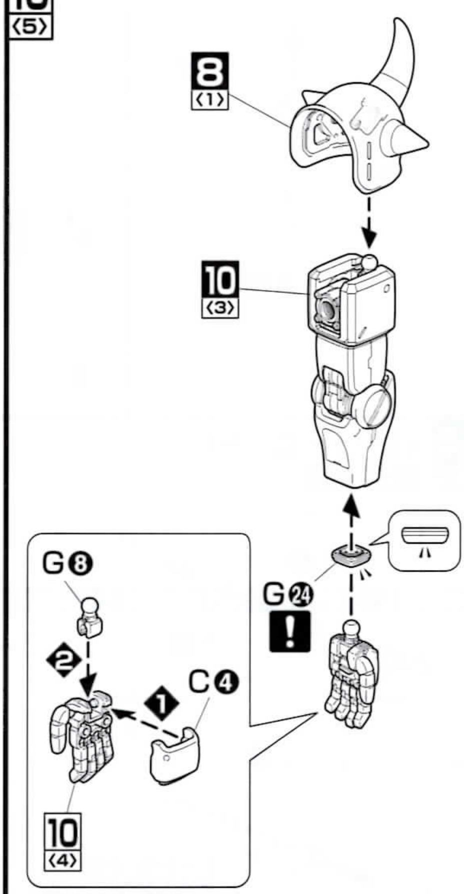
※15ページ 10⟨1⟩ に戻ってください。

10 ⟨4⟩

※16ページ 10⟨3⟩ からの続き。



10 ⟨5⟩



※16ページ 11 に戻ってください。

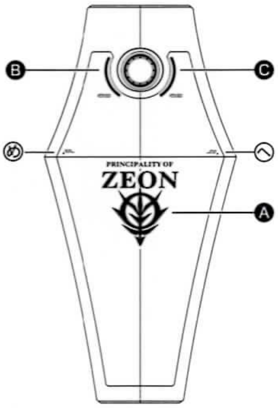
※組立図中の記号説明
- 向きに注意して組み立てる
- 両側に同じパーツを取りつける
- 先に組み立てる

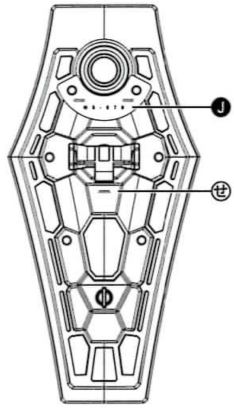
Seal
〈シール〉 下の図を見て、マーキングシールやガンダムデカールの貼る位置を確認してください。

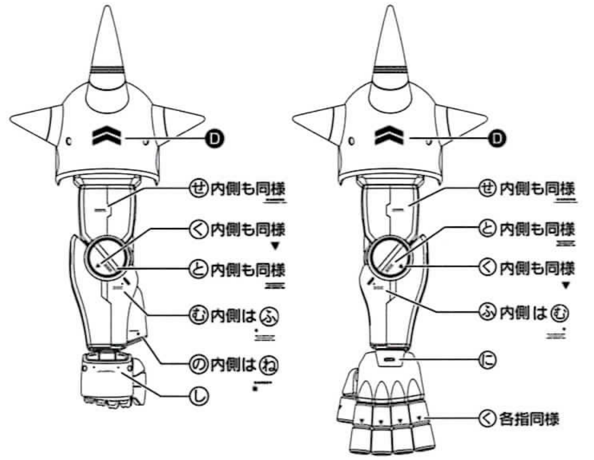
マーキングシールは「ひらがなの黒文字」、ガンダムデカールは「アルファベットの白文字」で表記してあります。
【例】 あ・・・マーキングシール　A・・・ガンダムデカール

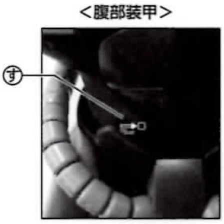
【ガンダムデカールの貼りかた】
1.転写するマークを大まかに切ります。
2.転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
3.シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすります。

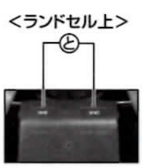
このマーキングシール及びガンダムデカールはプラモデルオリジナルのものです。貼り指示は一例ですのでイメージに合わせてお貼りください。







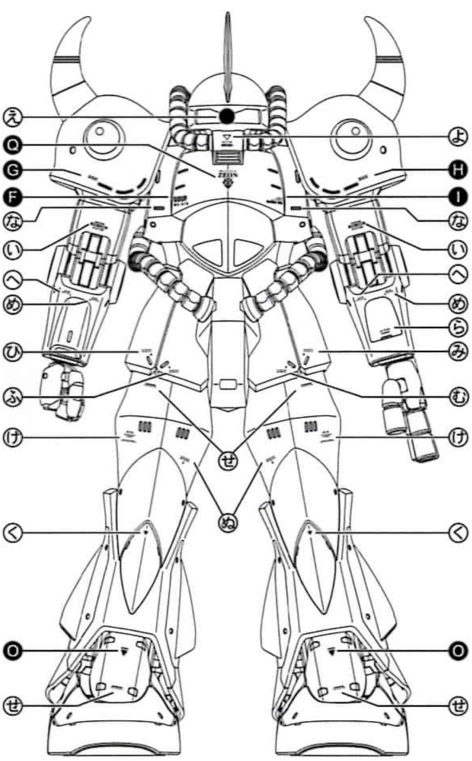


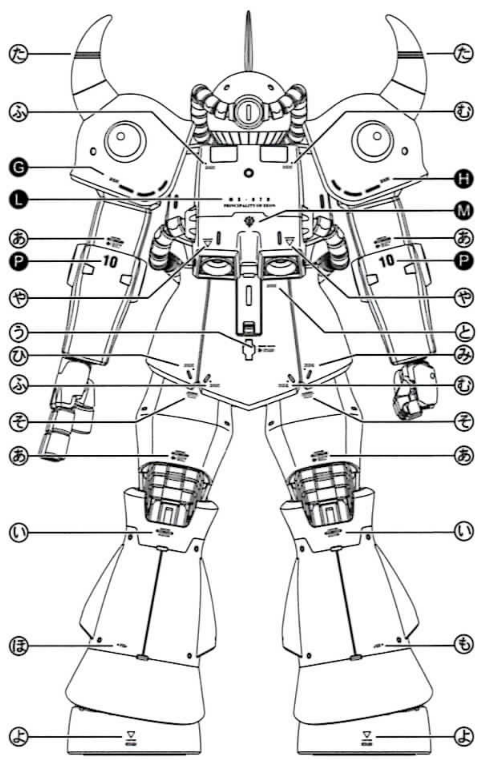


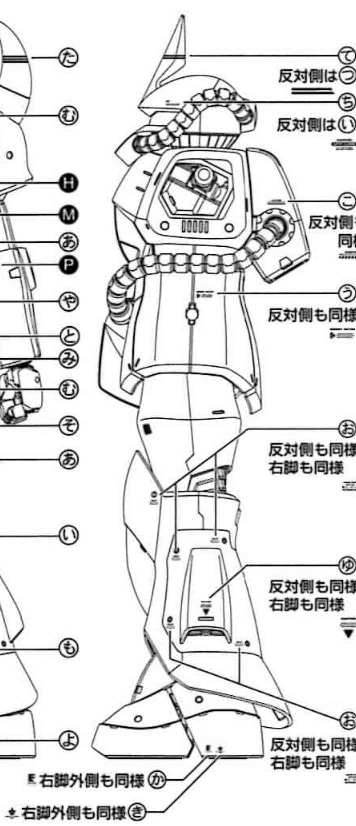












※余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。



MASTER GRADE

ジオン公国軍
陸戦用量産型モビルスーツ
MS-07B グフ Ver.2.0
1/100スケール マスターグレードモデル

MS-07B GOUF